富山大学

ワンダーフォーゲル部

★★★　　★★★

歌　集

★★★　　★★★

Ver.4

★★★　旧：富山大学　学歌　★★★

【作詞】菊地 靖雄（文理学部非常勤講師）
【作曲】不詳

１．太刀山の巌に　立ちて睥睨す
　　かの神鷲の　畏れる眼
　　張れる翼　疾風を捲き
　　空谷にこだまし　その翔ぶや
　　虚空の涯（みぎわ）
　　無限を目指し
　　無明をひらく

２．北海の湖　上に光耀す
　　この月影の　麗し面輪（おもわ）
　　笑まふ瞳　中天に澄み
　　空際みなぎり　その照るや
　　久遠の光
　　沈黙を極め
　　思索を深む

３．高志の野の央らを　占めて聳え立つ
　　富山大学　花咲く知性
　　競ふ科学　客観を知り
　　典籍に学びて　その往くや
　　理想の彼方
　　真理を求め
　　平和を焦る

★★★　現：富山大学　学歌　★★★

【作詞】南 英市
【作曲】江村 玲子

１．立山の峰はれやかに
浮かび立つ雄姿をあおぎ
ゆるぎない決意も新た
向学の夢呼び交わす
われら今ここにあふれる
希望あり富山大学

２．潮満ちる海さわやかに
はるかなる世界をめざし
鍛え練る意気溌剌と
研鑽の声和（わ）し励む
われら今ここにみなぎる
叡智あり富山大学

３．越の国四季あざやかに
うつり行く大地を踏まえ
かざし合う理想も高く
勇躍道を切り拓く
われら今ここにかがやく
未来あり富山大学

★★★　浄土の山男　★★★

【作詞】不詳
【作曲】不詳

１．色は黒いが　気はやさし
　　胸にファイトの　火が燃える
　　身にはボロを　まとえども
　　オイラ浄土の山男
　　あぁ楽しき我が心

２．お花畑で　見る夢は
　　遠いカンチェか　マナスルか
　　ザイルさばいてあの壁を
　　オイラ浄土の山男
　　あぁ楽しき我が心

３．雪崩とどろく　雪道を
　　たどりゃ春風　我が頬に
　　シール外して　雪だるま
　　オイラ浄土の山男
　　あぁ楽しき我が心

Cf.『蔵王の山男』

ー　山　の　唄　ー

★★★　あいつ　★★★

【作詞】伊勢 正三
【作曲】伊勢 正三
【 歌 】風

１．雪の中　一人の男が
山に帰って行った
ただ　それだけの　話じゃないか
あわただしい季節の中で
花束投げた　あの娘の　言葉が
木霊（こだま）して返ってくるけど
雪解け水の　音に消されて
また静けさがおとずれる

２．だからもう　忘れちまえよ
あんな奴のことは
こんな可愛い人を残して
一人で行くなんて
あいつがたとえ想い出一つ
何も残さなかったのは
あいつにすれば　精一杯の
愛だったんだね

春が来たら　去年と同じように
また山で迎えよう

※・それまでにきっと　あいつの得意だった
歌を覚えているから

★★★　赤いヤッケの想い出　★★★

（想い出の赤いヤッケ）

【作詞】菊池 平三郎
【作曲】三沢 聖彦

１．いつの日にか　君に逢えると
　　きっと、きっと信じてた
　　けどもう　やめた　やめた
　　青い空と　白い雲と
　　赤いヤッケと　あの娘と
　　今のゲレンデは　人影も無く
　　君の影さえも　今はもう見えず

２．い～つ、いつまでも　僕の胸に
　　きっと、きっと想い出す
　　けどもう　逢えぬ　逢えぬ
　　青い空と　白い雲と
　　赤いヤッケと　あの娘と
　　今のゲレンデは　人影も無く
　　君の影さえも　今はもう見えず

★★★　あざみの唄　★★★

【作詞】横井 弘
【作曲】八洲 秀章

１．山には山の　愁いあり
　　海には海の悲しみが
　　まして心の花園に
　　咲きしあざみの
　　花ならば

２．高嶺の百合の　それよりも
　　秘めたる夢を　ひとすじに
　　紅い燃ゆる　その姿
　　あざみに深き　我が想い

３．いとしき花よ　名はあざみ
　　心の花よ　名はあざみ
　　さざめの道は　果てなくも
　　香れよせめて　我が胸に

★★★　いつか　ある日　★★★

【原　詩】Roger Duplat　【日本語詞】深田 久弥
【作　曲】西前 四郎

１．いつかある日　　山で死んだら
　　古い山の友よ　　伝えてくれ

２．母親には　　安らかだったと
　　男らしく死んだと　　父親には

３．伝えてくれ　　愛しい妻に
　　俺が帰らなくても　　生きてゆけと

４．息子たちに　　俺の踏み跡が
　　ふるさとの岩山に　　残っていると

５．友よ山に　　小さなケルンを
　　建てて墓にしてくれ　　ピッケル立てて

６．俺のケルン　　美しいフェイスに
　　朝の陽が輝く　　広いテラス

７．友に贈る　　俺のハンマー
　　ピトンん唄う声を　　聞かせてくれ

★★★　おいらの恋　★★★

【作詞】馬場 祥弘
【作曲】黒木 惇而、持麿 公英

１．山家育ちのオイラの恋は
　　恋は恋でも酒持って来いよ
　　酒は酒でもオイラの酒は
　　熱い泪の　恋の酒

２．山家育ちのオイラの恋は
　　恋は恋でも山持って来いよ
　　山は山でもオイラの山は
　　岩と氷の　ごつい山

３．山家育ちのオイラの恋は
　　恋は恋でもテント持って来いよ
　　テントはテントでもオイラのテントは
　　一万尺に張るテント

４．山家育ちのオイラの恋は
　　恋は恋でもザイル持って来いよ
　　ザイルはザイルでもオイラのザイルは
　　心と心の　命綱

５．山家育ちのオイラの恋は
　　恋は恋でも水持って来いよ
　　水は水でもオイラの水は
　　山で育った　むこう水

６．山家育ちのオイラの恋は
　　恋は恋でもキス持って来いよ
　　キスはキスでもオイラのキスは
　　肩に食い込むキスリング

★★★　おぉ　シーハイル　★★★

※五所川原農林高校 スキー部 部歌
【作詞】林 征次郎
【作曲】鳥取 春陽

１．岩木の降ろしが　　吹くなら吹けよ
　　山から山へと　　我らは走る
　　昨日は梵珠根　　今日また阿闍羅
　　煙立てつつ　　おぉシーハイル

２．ステップターンすりゃ　　たわむれかかる
　　杉の梢よ　　未練の雪よ
　　心は残れど　　エールにとどめ
　　クリスチャニアで　　おぉシーハイル

３．夕陽は赤々　　シュプール染めて
　　たどる雪道　　果てさえ知らず
　　町にはチラホラ　　灯かりが点いた
　　ラッセル急げよ　　おぉシーハイル

★★★　岳人の唄　★★★

【作詞】不詳
【作曲】不詳
【採譜】土橋 茂子

１．星が降るあのコル　　グリセードで
　　あの人は来るかしら　　花をくわえて
　　アルプスの恋唄　　心ときめくよ
　　懐かしの岳人　　優しかの君

２．白樺にもたれるは　　いとし乙女か
　　黒百合の花を　　胸に抱いて
　　アルプスの黒百合　　心ときめくよ
　　懐かしの岳人　　優しかの君

★★★　キャンプファイヤーの唄　★★★

【作詞】藤浦 洸（こう）
【作曲】米山 正夫

１．黄昏の　そよ風は
白樺の　森影に
若い日の　一（ひと）夜を
楽しくはこぶ
赤く燃やせ　かがり火を
むらさきの空遠く
絶やすな歌声を

２．そのかみの　歌人（うたびと）が
竪琴（たてごと）を　抱き寄せて
人の世の　楽しさ
讃（たた）えた山に
赤く燃やせ　かがり火を
美しいその心
友とわかちつつ

３．乳色の　夜霧こめ
草しとね　濡れるころ
今日の日の　フィナーレを
綺麗（きれい）に閉じて
赤く燃やせ　かがり火を
懐かしの想い出を
名残の小枝に

★★★　山賊の唄　★★★

【作詞】田島 弘
【作曲】小島 祐嘉

１．雨が降れば　小川ができ
　　風が吹けば　山ができる
　　ヤッホ　ヤホホホ　寂しい心
　　ヤッホ　ヤホホホ　寂しい心

２．風が吹けば　波が立ち
　　波がたてば　船が沈む
　　ウッシ　ウシシシ　他人のものは
　　ウッシ　ウシシシ　オイラのものさ

３．夜になれば　空には星
　　陽が出れば　オイラの世界
　　ヤッホ　ヤホホホ　皆を呼べ
　　ヤッホ　ヤホホホ　皆を呼べ

４．オイラのものは　オイラのもの
　　他人（ひと）のものも　オイラのものさ
　　ウッシ　ウシシシ　おいらは山賊
　　ウッシ　ウシシシ　おいらは山賊

★★★　新人哀歌　★★★
【作詞】不詳
【作曲】不詳

１．嫌だ　嫌だよ　ワンゲルは
　　お偉い顔した　人ばかり
　　１つや　２つの　歳違い
　　どうして　そんなに　偉いのか

２．部長　先輩　雲の上
　　３年　４年はお偉くて
　　２年のガキども　山の上
　　お山の大将で　大いばり

３．えばりなさるな　２年生
　　１年無駄飯　先に喰い
　　揃いも　揃って　ごくつぶし
　　１年前を　忘れたか

４．いいぞ　いいぞと　おだてられ
　　死に物狂いで　来てみれば
　　朝から晩まで　飯炊きで
　　景色なんぞは　夢のうち

５．パイプくわえて　のし歩き
　　あごでしゃくって　指図する
　　リーダーと立てれば　つけ上がり
　　昼寝ばかりが　能じゃない

６．可哀想だよ　新人さん
　　新人歓迎で　おだてられ
　　ほんわかしたのも　夢のうち
　　新人練成でしぼられた

７．時告ぐ鳥でも　あるまいに
　　朝も早よから　起こされて
　　米とぐ水の　冷たさよ
　　国の母さん　恋しいよ

８．汽車の中まで　見送って
　　張ったりかました　人よりも
　　ホームの陰で　泣いていた
　　可愛いあの娘が　恋しいな

★★★　（ダンチョネ節）　★★★

【作詞】不詳
【作曲】不詳

１．山の男は　荒くれ者よネ～
　　だけど時にはネ　花も～摘む　ダンチョネ～

２．花は摘めども　山男にはネ～
　　それを捧げるネ　人も～ない　ダンチョネ～

３．月の差し込む　お山のテントでネ～
　　可愛いあの娘のネ　夢を～見る　ダンチョネ～

４．山の友情は　一筋心よネ～
　　山じゃ　ザイルがネ　命～綱　ダンチョネ～

５．渡り鳥かよ　山男はネ～
　　どこのお山でネ　果てる～やら　ダンチョネ～

６．山の男にゃ　娘はやれぬヨ～
　　やれぬ娘がね　行きた～がる　ダンチョネ～

※：神奈川県三浦市三崎町発祥の民謡

★★★　小さな日記　★★★

【作詞】原田 靖子
【作曲】落合 和徳
【 歌 】フォー・セインツ

１．小さな日記に　つづられた
　　小さな過去の　ことでした
　　私と彼との恋でした
　　忘れたはずの　恋でした

２．ちょっぴりすねて　横向いて
　　黙ったままで　いつまでも
　　やがては笑って　仲なおり
　　そんな可愛い　恋でした

３．山に初雪　降るころに
　　帰らぬ人と　なった彼
　　二度と笑わぬ　彼の顔
　　二度と聴こえぬ　彼の声

４．小さな日記に　つづられた
　　小さな過去の　ことでした
　　二度と帰らぬ　恋でした
　　忘れたはずの　恋でした

★★★　劔　沢　哀　歌　★★★

【作詞】不詳
【作曲】不詳

１．吹雪にあけて　また暮れりゃ
　　テント暮らしも　楽じゃない
　　テルテル坊主の　紙人形
　　吊るして祈る　明日の空

２．悲しみ秘めたる　劔沢
　　静かに眠る　六字塚
　　一夜なだれに埋もれし
　　六つの御霊に幸よあれ

３．夢にまで見た　三ノ窓の
　　初の登攀を誓いつつ
　　ザイルさばけば　岩陰に
　　ミヤマリンドウの花ひとつ

★★★　剱の歌　★★★

※早稲田大学山岳部 部歌
【作詞・作曲】不詳

１．剱見るなら　赤谷尾根でよ
　　大窓・小窓にね　三ノ窓　ダンチョネ～

２．夢に描いた　剱の山によ
　　意気と力ででね　ぶち当たる　ダンチョネ～

３．窓に数々　窓はあれどよ
　　剱の大窓ね　日本一　ダンチョネ～

４．ブナでドンと撃つ　雪崩の音はよ
　　ごついおいらのね　度胸試し　ダンチョネ～

５．窓を開ければ　富山の街がよ
　　暗い夜空にね　薄明り　ダンチョネ～

６．ザイル結んで　氷の尾根でよ
　　仰ぐ剱のね　薄化粧（けはい）　ダンチョネ～

★★★　剱の尾根　★★★

【作詞】不詳
【作曲】不詳

１．剱の尾根の　　ふもとの
　　白萩の流れ　　イワナが獲れる
　　一度おいでよ　　我が馬場島へ
　　オッハイヤー　オッハイヤー　オッハイヤ
　　鳴るはライライヨ　ライライヨ

２．穂高の尾根の　　ふもとの
　　梓のながれ　　ヤマメが獲れる
　　一度おいでよ　　我が徳澤へ
　　オッハイヤー　オッハイヤー　オッハイヤ
　　なるはライライヨ　ライライヨ

３．清流（せきら）の流れ　　娘ひとり
　　何が悲しゅうて　　泣くのやら
　　踊れ　踊れ　　泡酒呑んで
　　オッハイヤー　オッハイヤー　オッハイヤ
　　なるはライライヨ　ライライヨ

４．ヒマラヤの尾根の　　ふもとの
　　ガンジスの流れ　　クジラが獲れる
　　一度おいでよ　我がカトマンズへ
　　オッハイヤー　オッハイヤー　オッハイヤ
　　なるはライライヨ　ライライヨ

★★★　はるかな友に　★★★

【作詞】磯部 俶
【作曲】磯部 俶

１．　静かな夜更けに　いつもいつも
　　想い出すのは　お前のこと
　　お休み安らかに　辿れ（たどれ）夢路
　　お休み楽しく　今宵もまた

２．　明るい星の夜は　遙かな空に
　　想い出すのは　お前のこと
　　お休み安らかに　辿れ（たどれ）夢路
　　お休み楽しく　今宵もまた

３．　さびしい雪の夜は　囲炉裏の端で
　　想い出すのは　お前のこと
　　お休み安らかに　辿れ（たどれ）夢路
　　お休み楽しく　今宵もまた

４．　冷たいテラスのビバークの夜
　　想い出すのは　お前のこと
　　お休み安らかに　辿れ（たどれ）夢路
　　お休み楽しく　今宵もまた

５．　日澄む山の夜の　ヒュッテの窓
　　想い出すのは　お前のこと
　　お休み安らかに　辿れ（たどれ）夢路
　　お休み楽しく　今宵もまた

★★★　ひとりの山　★★★

【作詞・作曲】持麿 公英

その工程は　行けども行けども
凍て果てて　フィルム色だった
空までも　その色と寒さに震え
凍てながら　被われていたっけ
でも明日はきっと雲が晴れて　バラ色の
いや純白の　山嶺が
瞳を癒してくれるだろう

１．山に憧れ　山に行き
　　言葉少なく　ただ歩む

２．雪渓滑りて　岩場を登りゃ
　　触れる岩肌の　冷たさよ

３．恋に破れて　夢も破れ
　　夕陽静かに　山に沈む

４．　一人寂しく　たたずめば
　　たばこの煙　ただひとすじ

誰かが言った　きっとその青い空に
指を出せば指先は
真っ蒼に染まるだろうと　そう
あなたの白いシャツだって　染まるでしょう
僕はその中にある岳を　一人見つめる　そして
描く夢もみんな

★★★　ピレネーの山の男（昭和 30 年）　★★★
【作詞】西條 八十
【作曲】古賀 政男
【 歌 】岡本 敦郎

１．ピレネーの山男は
　いつも一人　雪の中で
　霧にぬれ　星を眺めて
　もの言わず　伐るはモミの木

　ハイホー　ハイホー
　千年の古い苔の木

２．ピレネーの山男は
　いつも一人　何を想う
　雨降れば　小屋の小鳥に
　髭をなでて　昔を語る

　ハイホー　ハイホー
　思い出の　愛の駒鳥

３　ピレネーの　山の男よ
　春は行き　夏が来るよ
　角笛は　風に流れて
　旅馬車は　今日も急ぐよ
　ハイホー　ハイホー
　故郷の　おまえの町へ

★★★　二人の山男　★★★

【作詞】登坂 秀樹
【作曲】米山 正夫

１．そんなに急ぐと　山が逃げるよ
ゆっくり行こう（ゆっくり行こう）
あせらずに行こう（あせらずに行こう）
口笛吹いて
汗をぬぐえば
くすんだヒュッテの
赤い屋根
見慣れた道さ（道さ）
急ぐこたぁ　ないさ

ヨイショ
　　コラショ
ヨイショ
　　コラショ

２．そんなに急ぐと　惚れられないよ
ゆっくり行こう（ゆっくり行こう）
あせらずに行こう（あせらずに行こう）
緑のハンカチ
首にまけば
若い娘の
まねく声
見慣れた山さ（山さ）
急ぐこたぁないさ（ないさ）

ヨイショ
　　コラショ
ヨイショ
　　コラショ

★★★　穂高よさらば　★★★
【作詞】芳野 光彦
【作曲】古関 裕而

１．穂高よさらば　また来る日まで
　　奥穂に映ゆる　茜雲
　　かえりみすれば　遠ざかる
　　瞼に残る　ジャンダルム

２．滝谷さらば　また来る日まで
　　北穂に続く　雪の道
　　かえりみすれば　遠ざかる
　　瞼に残る　槍ヶ岳

３．涸沢さらば　また来る日まで
　　横尾に続く　雪の道
　　かえりみすれば　遠ざかる
　　瞼に残る　屏風岩

４．岳沢さらば　また来る日まで
　　前穂を後に　河童橋
　　かえりみすれば　遠ざかる
　　瞼に残る　畳岩

※電撃突撃隊の歌より

★★★　山男の歌　★★★

【作詞】神保 信雄
【作曲】黒木 惇而（採譜）

１．娘さんよく聞けよ　山男にゃ惚れるなよ
　　山で吹かれりゃよ～ぉ　若後家さんだよ

２．娘さんよく聞けよ　山男の好物はよ
　　山の便りとよぉ　飯盒の飯だよ

３．山男よく聞けよ　娘さんにゃ惚れるなよ
　　娘心はよぉ　山の天気よ

４．山男同志の　心意気はよ
　　山で鍛えたよぉ　友に学ぶよ

５．娘さんよく聞けよ　山男に惚れたらよ
　　息子達だけはよぉ　山にやるなよ

★★★　山小屋の灯　★★★

【作詞】米山 正夫
【作曲】米山 正夫

１．黄昏の灯りは　ほのかに灯りて
　　懐かしき山小屋は　麓の小道よ
　　想い出の窓に寄り　君を忍べば
　　風は過ぎし日の歌をば　ささやくよ

２．暮れゆくは白馬か　穂高はあかねよ
　　樺の木のほの白き　影も薄れゆく
　　寂しさに君呼べど　我が声むなしく
　　遙るか谷間より　木霊はかえり来る

３．山小屋の灯りは　今宵も灯りて
　　ひとり聞くせせらぎも　静かに更けゆく
　　憧れは若き日の　夢を乗せて
　　夕べ星のごと　美空に群れ飛ぶよ

★★★　山の子　★★★

【作詞】坂下 茂己
【作曲】坂下 茂己

１．雨が降り　テルテル坊主は泣いても
　　私たちは泣かないで　山を見つめる
　　ララ　ララ　ラン
　　山の子は　山の子は　みんな強いよ　強いよ

２．歌声が　この小径に響けば
　　あの森影　この谷間　山彦の歌
　　ララ　ララ　ラン
　　山の子は　山の子は　歌が好きだよ　好きだよ

３．雲が去り　青い美空を見上げて
　　歌いましょう山鳩と　兄と妹
　　ララ　ララ　ラン
　　山の子は　山の子は　みんな仲良し　仲良し

★★★　山　の　賛　歌　★★★

【作詞】中村 五郎
【作曲】中村 五郎

１．しあわせの　しあわせの　夜が明ける
　　しあわせの　しあわせの　鐘が鳴る
　　しああせの　しあわせの　太陽が昇る
　　しあわせの　しあわせの　山の夜明けだ

２．喜びの　喜びの　歌が流れる
　　喜びの　喜びの　笑いが響く
　　喜びの　喜びの　山の賛歌だ
　　喜びの　喜びの　若い命だ

３．静かな　静かな　憩いの時だ
　　静かな　静かな　夜空の星だ
　　静かな　静かな　愛の賛歌だ
　　静かな　静かな　山の夜更けだ

　　山の夜明けだ　山の夜明けだ

★★★　山の友よ　★★★

【作詞】戸田 豊鉄
【作曲】戸田 豊鉄

１．薪わり　飯炊き　小屋掃除
　　みんなで　みんなで　やったっけ
　　雪解け水が　冷たくて
　　苦労したこと　あったっけ
　　今では遠くみんな去り
　　友を忍んで仰ぐ空

２．前傾　外傾　全制動
　　みんなで　みんなで　やったっけ
　　雪が深くて　ラッセルに
　　苦労したこと　あったっけ
　　今では遠くみんな去り
　　友に便りの筆をとる

３．唐松　萌ゆる　春山に
　　みんなで　みんなで　行ったっけ
　　思わぬ雪に　ワカン履き
　　苦労したこと　あったっけ
　　今では遠くみんな去り
　　友の姿を夢に見る

★★★　山の人気者　★★★

【作詞】L.Sarony　　【訳詩】本牧 二郎
【作曲】L.Sarony
【 歌 】中野 忠晴

１．山の人気者　それはミルク屋
　　朝から晩まで唄をふりまく

※牧場は広々　声は朗らか
　その虫の良さは　アルプスの花
　娘という娘は　ヨーレリッヒー
　ウラウラホー　ヨーレリヒー
　ミルク売りを慕う　ヨーレリヒー
　ヨーレリ　ヨーレリヒー
　流石はのど自慢
　すごい腕前
　乳搾る他に招き寄せて
　娘たちを惑わせる

※繰り返し

★★★　槍ヶ岳の歌　★★★

【作詞】土橋 茂子
【作曲】土橋 茂子

１）残雪映ゆる　槍沢の
　　お花畠に　アマツバメ
　　槍の穂先を　仰ぎ見る
　　雄々（おお）しき山よ　槍ヶ岳

２）朝日を受けて　槍に立つ
　　北アルプスは　雲の上
　　播隆上人　開山の
　　歴史を秘める　槍ヶ岳

３）穂高の峰も　北鎌も
　　輝く星座に　囲まれて
　　楽しき友よ　思い出の
　　小屋の灯ともる　槍ヶ岳

★★★　槍と小槍　★★★

【作詞】不詳
【作曲】不詳

１．槍と小槍の間に咲いた
　　人には知られぬ草花に
　　淡い想いを寄せてはみたが
　　所詮おいらは山男

２．剱と黒部はオイラの庭と
　　そんな根性の男でも
　　高嶺の花にはその手は出せぬ
　　そんな孤独な山男

３．可愛いあの娘は忘れはせぬが
　　山の恵みと岩肌が
　　優しくオイラを抱きしめて
　　出るに出られぬ籠の鳥

★★★　ゆき子　★★★

【作詞】横井 弘
【作曲】岩代 浩一
【 歌 】仲宗根　美樹 with ボニージャックス

遠く時が過ぎゆく　山々も秋によばれ
そして去って行った　あとに冬がいた
そこにいたのは　誰だろうか

１．白銀煙る　アルプスの
　　小屋に優しい　娘ひとり
　　その名は「ゆきこ」　ともす灯に
　　夢もゆれるよ　夜空遠く

２．雪崩を聞いて　目を閉じて
　　山の幸せ　祈る娘
　　その名は「ゆき子」　ともす灯に
　　夢もゆれるよ　夜空遠く

３．愛しい人の　眠る谷
　　呼べど　答えぬ
　　その名は「ゆき子」　ともす灯に
　　夢もゆれるよ　夜空遠く

★★★　雪山賛歌　★★★

【作詞】西堀 栄三郎
【作曲】アメリカ民謡（Oh,My Darling Clementine）

（※繰り返し）

１．雪よ　岩よ　我らが宿り
　　俺たちゃ　町には　住めないからに（※）

２．シール外して　パイプの煙り
　　輝く尾根に　春風そよぐ（※）

３．煙い小屋でも　黄金の御殿
　　早く行こうよ　谷間の小屋へ（※）

４．テントの中でも　月見は出来る
　　雨が降ったら　濡れれば良いさ（※）

５．吹雪の日には　本当につらい
　　ピッケル握る　手がこごえるよ（※）

６．雪の間に間に　キラキラ光る
　　明日は登ろうよ　あのいただき（頂上）に（※）

７．朝日に輝く　新雪踏んで
　　今日も行こうよ　あの山超えて（※）

８．山よさよなら　ごきげん宜しゅう
　　また来る時にも　笑っておくれ（※）

★★★　雪山に消えたあいつ　★★★
【作詞】沢ノ井 江児
【作曲】上條 たけし

１．山が命と　笑ったあいつ
　　山をいちばん　愛したあいつ
　　雪の　穂高よ　答えておくれ
　　俺に一言　教えておくれ
　　なんで吹雪に　あいつは消えた

２．重いザイルを　担いだあいつ
　　銀のピッケルを　振ってたあいつ
　　山を　この俺　恨みはせぬが
　　あんないいやつ　どこにもいない
　　なんで吹雪に　あいつは消えた

３．夢も破れて　帰らぬあいつ
　　雪に埋もれて　眠ったあいつ
　　山の　木霊よ　帰しておくれ
　　俺に　もう一度　優しい笑顔
　　なんで吹雪に　あいつは消えた
　　なんで吹雪に　あいつは消えた

★★★　ライダース・イン・ザ・スカイ　★★★
【作詞】不詳
【原曲】Stan Jones
【採譜】鵜飼 紀夫

１．町を離れて野に山に
　　行方定めぬ俺たちは
　　昨夜の星見りゃしみじみ忍ぶ
　　遠い昔の物語り　*あぁ物語り*

２．可愛いあの娘は良家のお嬢さん
　　俺はしがない山男
　　山を歩いて慰める
　　笑ってくれるな　お月様　*あぁお月様*

３．はかない恋に泣いたとて
　　山鳥飛び立つ朝が来りゃ
　　俺たちの心は喜びにあふれ
　　群れたつ鳥は夢を呼ぶ　*あぁ夢を呼ぶ*

４．暗い谷間をさか登り
　　峠の縁に出た時にゃ
　　白い大きなあの峰に
　　向かって大きなあくびした　*あぁあくびした*

★★★　ワンゲル　ズンドコ節　★★★

【作詞】不詳
【作曲】不詳

１．破れズボンに　　ドタ靴履いて
　　肩で風切る　　オイラの姿
　　伊達じゃできない　　ワンゲル暮らし
　　山の男はツライもの
　　ドコ　ズンドコ　ズンドコ

２．汽車は出て行く　　富山の街を
　　可愛いあの娘が　　まぶたに浮かぶ
　　明日は南か　　剣の峰か
　　木の根枕の　　渡り鳥
　　ドコ　ズンドコ　ズンドコ

３．テント背負（しょ）わされ　　ケツ叩かれて
　　アゴを出します　　胸つきながら
　　登りゃ稜線　　頂上も近し
　　ヤッホ　ヤッホの声がする
　　ドコ　ズンドコ　ズンドコ

ー　寮歌・他校の唄　ー

★★★　あぁ玉杯に花うけて　★★★

※一高寮歌
【作詞】矢野 勘治
【作曲】楠 正一

１．嗚呼（あぁ）玉杯に花うけて
　　緑酒（りょくしゅ）に月の影宿（やど）し
　　治安の夢に　耽（ふけ）りたる
　　栄華の巷（ちまた）　低く見て
　　向ヶ丘（むこうがおか）に　そそり立つ
　　五寮（ごりょう）の健児　意気高し

２．芙蓉（ふよう）の雪の精をとり
　　芳野の花の　華（か）を奪い
　　清き心の　益良雄（ますらお）が
　　剱と筆とを　とり持ちて
　　ひとたび起たば何事か
　　人世の偉業成らざらん

３．濁（にご）れる海に　漂（ただよ）える
　　我国（わがくに）民（たみ）を救わんと
　　逆巻く浪をかきわけて
　　自治の大船　勇ましく
　　尚武の風を　帆にはらみ
　　船出せしより　十二年

４．花咲き花はうつろいて
　　露おき露のひるがごと
　　星霜移り人は去り
　　舵とる船師（かこ）は変わるとも
　　我がのる船は　進むなり
　　理想の自治に進むなり

５．行途（ゆくて）を拒むものあらば
　　斬りて捨つるに何かある
　　破邪の剱を抜き持ちて
　　舳（へさき）に立ちて　我呼べば
　　魑魅魍魎（ちみもうりょう）も影ひそめ
　　金波銀波の海静か

★★★　エーデルワイスの唄　★★★

※法政大学 山岳部
【作詞】菅沼 達太郎

１．雪は消えねど　　春は兆しぬ
　　風はなごみて　　陽は温かし
　　氷河のほとりを　　滑りてゆけば
　　岩陰に咲く　　アルペン・ブリューメン
　　紫匂う　　都を後に
　　山に憧れる　人の群れ

２．エーデルワイスの　　花微笑みて
　　鋭き岩角　　金色に照り
　　山は目覚めぬ　　夏の朝風
　　乱雲おさまり　　夕空晴れぬ
　　命のザイルに　　わが身を託し
　　思わず仰ぐ　　アルペン・グリューエン

３．星影さやかに　　空澄み渡り
　　葉ずえの露に　　秋立ち染めぬ
　　金と銀とに　　装い凝らし
　　女神のごとき　　白樺の森
　　紅い燃ゆる　　山から山へ
　　行方も知らず　　さすらい行かん

４．吹雪は叫び　　黄昏せまり
求る小屋の　　ありかも知れず
あぁ　この雪山　　頂上として
シーロイファー　　行く手を閉ざす
あぁこの雪原　　寂漠として
寒月鋭く　　シュプール照らす

５．あぁ玲瓏の　　雪の高嶺に
心静かに　　頂きに立ち
尊き山の　　教えを受けん
身も魂も　　穢れは消えて
永久に輝く　　白光のうちに
清き幸をば　　求め得るらん

★★★　丘の團欒に（昭和２年）　★★★

※富山高校 寮歌

【作詞・作曲】中村 亮二　【 歌 】加藤 登紀子

櫻花の匂　美しき
磯部の堤に紅映ゆる
千古の峰を望みつつ
闊歩する若き姿、
これぞ三年の春秋を

真理の道を究むべく
辿り来し学徒の姿。
見よ吾等二條の白線、
祝へ今日の　亦無き宴の日を。

丘の團欒にあくがれて
ふるさと遠く若き子が
青冥寮に三年の
夢見る多き旅枕

意気と情けに結ばれて
あした丘べに球を投げ
ゆふべ窓辺に読書の
胸と胸との燭らし合ひ

ああよしさらば友人よ
またかの丘に集ひして
友情の美酒酌み交わし
唄い明かさん春の夜を

★★★　北の都に秋たけて　★★★

※四高時習寮 南寮歌
【作詞】駒井 重次
【作曲】金原 祐之助
【 歌 】

１．北の都に秋たけて
　　我ら二十歳（はたち）の夢かぞふ
　　男（をとこ）女（をみな）の棲む国に
　　二八（にはち）に帰るすべもなし

２．その術（すべ）なきを謎ならで
　　盃捨てて嘆かんや
　　酔える心の吾（われ）若し
　　吾永久（とこしえ）に縁なる

３．そのすべなきを謎ならで
　　盃投げて呪わんや
　　歌う心の吾若し
　　われ永久に縁なる

４．髪は緑の青年が
　　友情（なさけ）の園に耕（つちか）いし
　　いや生き繁る友垣や
　　三年の春とめぐる哉

※つづく

★★★　逍遥の歌　★★★

※三高寮歌　－紅萌ゆる（明治 37 年）－

【作詞】澤村 胡夷

【作曲】Ｙ．Ｋ

１．紅萌ゆる　丘の花
　　早緑匂う　岸の色
　　都の花に　嘯（うそぶ）けば
　　月こそかかれ　吉田山

２．緑の夏の芝露に
　　残れる星を　仰ぐとき
　　希望は高く　溢れつつ
　　我等が胸に　湧き返る

３．千載秋の　水清く
　　銀漢空に　さゆる時
　　通へる夢は　崑崙の
　　高嶺の此方　ゴビの原

４．ラインの城や　アルペンの
　　谷間の氷雨　なだれ雪
　　夕は辿る北溟の　日の影暗き　冬の波

※つづく

★★★　天は東北　★★★

※二高寮歌
【作詞】土井 晩翠
【作曲】楠美 恩三郎
【 歌 】ボニージャックス

１．天は東北　山高く
　　水清き郷　七州の
　　光一教の因るところ
　　庭のあしたの　玲瓏（れいろう）の
　　露に塵（ちり）なし　踏みわくる
　　我　人生の朝ぼらけ

２．花より花に蜜を吸ふ
　　蜂のいそしみ我が励
　　不断の渇　とめがたき
　　知識の泉　掬みとらむ
　　沸きたつ血潮　青春の
　　力山をも抜くべきを

３．思千里の青雲の
　　高き理想を身の生命
　　「時」の大海　岸の砂
　　絶えぬ進歩の跡のこせ
　　夕陽の西に沈むとき
　　今日は空との憾（うらみ）なく

※つづく

★★★　なため　★★★

※明治大学　WV　部歌
【作詞】小林 碧
【作曲】小林 碧

１．　森深く　迷いたどれば
　　古き鉈目は　導きぬ
　　人の心の　しみじみと
　　懐かし嬉し　小暗き径に

２．　岨（そば）茨　如何に有りとも
　　努め拓きて　ともどもに
　　愛のしるべを　刻みつつ
　　仰ぎてゆかん　真白き峰を

★★★　琵琶湖周航の歌　★★★

※旧：三高ボート部
【作詞】小口 太郎
【作曲】小口 太郎
【 歌 】加藤 登紀子

１．我は湖の子　さすらいの
　　旅にしあれば　しみじみと
　　昇る早霧や　さざ波の
　　滋賀の都よ　いざさらば

２．松は緑に　砂は白き
　　雄松が里の　乙女子は
　　赤き椿の　森影に
　　はかなき恋に　泣くとかや

３．波の間に間に　漂えば
　　赤い泊火　懐かしみ
　　行くへ定めぬ　草枕
　　今日は今津か　長浜か

４．瑠璃の花園　サンゴの宮
　　古い伝えの　竹生島
　　仏の御手に　抱かれて
　　眠れ乙女子　安らけく

★★★　武天源頭に草萌えて　★★★

※旧制五高寮歌
【作詞】恵利 武
【作曲】東京音楽学校
【 歌 】

１．武天源頭（ぶふげんとう）に草萌えて
　花の香　甘く夢に入り
　瀧田の山に　秋ゆいて
　雁　遠き月影に
　高くそびゆる三寮の
　歴史は移る　十四年

２．夫（そ）れ西海（さいかい）の一聖地
　濁世（だくせ）の波の　永遠の堰き
　健児が胸に　青春の
　意気や溢るる　五高魂（ごこうこん）
　その剛健の　質なりて
　玲瓏（れいろう）照らす　人の道

３．塵世（じんせ）に節（せつ）を偲ぶかな
　ああ新興の気を負いて
　浮華（ふか）の巷（ちまた）にわれ立てば
　思いは馳（は）する木訥（ぼくとつ）の
　流風（りゅうふう）薫銀杏城（いちょうじょう）
　さらば我が友　叫ばずや

※つづく

★★★　紡ヶつる賛歌　★★★
※広島高師 山岳部 部歌
【作詞】神尾 明正／松本 征夫
【作曲】竹山 仙史

１．人みな花に　酔うときも
　　残雪恋し　山に入り
　　涙を流す　山男
　　雪解の水に　春を知る

２．ミヤマキリシマ　咲きほこり
　　山紅に　大船の
　　峰を仰ぎて　山男
　　花の情けを　知るものぞ

３．四面山なる　紡ヶつる
　　夏はキャンプの　火を囲み
　　夜空を仰ぐ　山男
　　無我を悟は　この時ぞ

４．いで湯の窓に　夜霧きて
　　せせらぎに寝る　山宿に
　　一夜を憩う　山男
　　星を仰いで　明日を待つ

★★★　都ぞ弥生　★★★

※北大予科恵迪（けいてき）寮歌
【作詞】横山 芳介
【作曲】赤城 顕次

１．都ぞ弥生の雲紫に
花の香　漂ふ宴遊（うたげ）の莚（むしろ）
尽きせぬ奢（おご）りに　濃き紅や
その春暮れては　移らふ色の
夢こそ一時　青き繁みに
燃えなん我胸想ひを載せて
星影冴かに　光れる北を
人の世の
清き国ぞと　憧れぬ

２．豊かに稔れる石狩の野に
雁（かりがね）はるばる沈みてゆけば
羊群（ようぐん）声なく牧舎に帰り
手稲の巓（いただき）黄昏こめぬ
雄雄しく聳（そび）える　楡（えるむ）の梢
打振る野分に　破壊（はえ）の葉音の
さやめく甍（いらか）に久遠（くおん）の光
おごそかに　北極星を仰ぐかな

３．寒月懸れる針葉樹林
　　橇（そり）の音（ね）凍りて物皆寒く
　　野もせに乱るる清白の雪
　　沈黙（しじま）の暁（あかつき）
　　霏霏（ひひ）として舞う
　　ああその朔風（さくふう）
　　飄々（ひょうひょう）として
　　荒（すさぶ）る吹雪の　逆巻くをみよ
　　ああその蒼空（そうくう）
　　梢（こずえ）聯（つら）ねて
　　樹氷咲く　壮麗の地をここに見よ

ー　フォークソング　ー

★★★　青葉城恋唄　★★★

【作詞】星間 船一
【作曲】さとう 宗幸
【 歌 】さとう 宗幸

１．広瀬川　流れる岸部　想い出は帰らず
　　早瀬おどる光に　揺れていた君の瞳

　※時はめぐり　また夏が来て
　　あの日と同じ　流れの岸
　　瀬音ゆかしき　杜の都
　　あの人はもういない

２．七夕の　飾りはゆれて　想い出は帰らず
　　夜空　輝く星に　願いを込めた君のささやき

　　時はめぐり　また夏が来て
　　あの日と同じ　七夕祭り
　　はずれさやけき　杜の都
　　あの人はもういない

３．青葉通り　香る葉みどり　想い出は帰らず
　　木蔭こぼれる灯に　濡れていた君の頬

　　時はめぐり　また夏が来て
　　あの日と同じ　通りの角
　　吹く風やさしき　杜の都
　　あの人はもういない
※繰り返し

★★★　哀愁のカサブランカ　★★★

【作詞・作曲】B.Higgins / S.Limbo / J.Healy
【日本語詞】　山川 啓介
【 歌 】　　郷 ひろみ

１．　抱きしめると　いつも君は
洗った髪の　香りがした
まるで若過ぎた　季節の香りさ
結ばれると　信じてた
セピア色した　映画が好き
やさしくて哀しい　愛があるから
スクリーン見つめて　濡れたその頬を
ぼくの肩に　押し当てていたね

風吹く胸が　さがしてる
君のためいき　ぬくもり
Please Come Back To Me
もう二度と
あんなに誰かを　愛せない

２．大人の恋をしたと　聞いた
新しい名前になったと　聞いたよ
でも僕の心の　スクリーンの中
君がはしゃぐ　君が泣いている

二人合わせた　銀貨（コイン）でも
夢が買えたね　あの頃
Please Come Back To Me
ぼくたちは　ひとつの季節の主役さ

風吹く胸が　さがしてる
君のためいき　ぬくもり
Please Come Back To Me
もう二度と
あんなに誰かを　愛せない

あんなに誰かを　愛せない

★★★　あの鐘を鳴らすのはあなた　★★★

【作詞】阿久 悠
【作曲】森田 公一
【 歌 】和田 アキ子

１．あなたに逢えて　よかった
あなたには希望の　においがする
つまづいて　傷ついて　泣き叫んでも
さわやかな希望の　匂いがする
街はいま　眠りの中
あの鐘を鳴らすのは　あなた
人はみな　悩みの中
あの鐘を鳴らすのは　あなた

２．あなたに逢えて　よかった
愛しあう心が　戻ってくる
優しさや　いたわりや　ふれあうことを
信じたい心が　戻ってくる
街はいま　砂漠の中
あの鐘を　鳴らすのは　あなた
人はみな　孤独の中
あの鐘を鳴らすのは　あなた

街はいま　眠りの中
あの鐘を鳴らすのは　あなた
人はみな　悩みの中
あの鐘を鳴らすのは　あなた

★★★　あの素晴らしい愛をもう一度　★★★
【作詞】北山 修
【作曲】加藤 和彦
【 歌 】加藤 和彦、北山 修

１．命かけてと　誓った日から
　　素敵な　想い出　残してきたのに
　　あの時　同じ花を見て
　　美しいと言った二人の
　　心と心が　今はもう通わない
※あの素晴らしい愛をもう一度
　あの素晴らしい愛をもう一度

２．赤トンボの歌を　歌った空は
　　何も　変わって　いないけど
　　あの時　ずっと夕焼けを
　　追いかけて行った二人の
　　心と心が　今はもう通わない
　※くりかえし

３．広い荒野に　ポツンといるようで
　　涙が　知らずに　溢れてくるのさ
　　あの時　風が流れても
　　変わらないと言った二人の
　　心と心が　今はもう通わない
　※くりかえし

★★★　あんたが大将！　★★★

【作詞】武田 鉄矢
【作曲】中牟田 俊男
【 歌 】海援隊

１．黙っていれば　いいものを
　酒の席とは　言いながら
　始まりましたね　アンタの話
　いろいろ苦労もあったでしょうが
　自慢話が長すぎる
　泣かせた女の数ばかり
　威張っていても　男の値打ち
　上がるもんじゃ　ないんです
※アンタが大将！　アンタが大将！
　アンタが大将！　アンタが大将！
　アンタが～大将！

２．この世はすべて　チャンスなんだ
　うまく生きたが　得なんだと
　得意話が　まだ続く
　いろいろ苦労もあったでしょうが
　手柄話しが多すぎる
　風に吹かれて　生きてたくせに
　いつの間にやら　悟りきり
　世界はアンタのためにある
※くりかえし

３．僕なんか　生まれがいいもので
おんば日傘で　大きくなって
一度苦労がしてみたいなと
アンタの嫌味のねちっこさ
白いマンマに　手を合わせ
父ちゃん　母ちゃん　いただきますと
涙こらえて　食べたことが無い
そんな　アンタに何がわかる
（へへイ）

４．言わせてもらえば　この人の世は
チャンスばかりじゃ　ないんだよ
心に燃える　小さな夢を
つまづきながら　燃やすこと
世渡り上手にゃ　縁ないが
祈り続ける　悲しさよ
しばし手にした　アンタの出世
今夜　黙って　誉めてあげる
※くりかえし

★★★　「いちご白書」をもう一度　★★★
【作詞】荒井 由美
【作曲】荒井 由美
【 歌 】バンバン

１．いつか君と行った　映画がまたくる
　　授業を抜け出して　二人で出かけた
　　哀しい場面では　涙ぐんでた
　　素直な横顔が　今も恋しい
　　雨に破れかけた　街角のポスターに
　　過ぎ去った昔が　鮮やかによみがえる
　　君も観るだろうか　「いちご白書」を
　　二人だけのメモリー　どこかでもう一度

２．僕は無精ひげと　髪をのばして
　　学生集会へも　時々出かけた
　　就職が決まって　髪を切ってきたとき
　　もう若くないさと　君に言い訳したね
　　君も観るだろうか　「いちご白書」を
　　二人だけのメモリー　どこかでもう一度

　　二人だけのメモリー　どこかでもう一度

★★★　イムジン河　★★★

【作詞】朴 世永　　（訳詩）松山 猛
【作曲】高 宗漢　　（編曲）加藤 和彦
【 歌 】ザ・フォーク・クルセダーズ

１．イムジン河　水清く
　とうとうと流る
　水鳥自由に　群がり飛び交うよ
　我が祖国　南の地　思いは遥か
　イムジン河　水清く　とうとうと流る

２．北の大地から　南の空へ
　飛びゆく鳥よ　自由の使者よ
　誰が祖国を
　二つに分けてしまったの
　誰が祖国を　分けてしまったの

３．イムジン河　空遠く
　虹よかかっておくれ
　河よ　おもいを伝えておくれ
　ふるさとをいつまでも　忘れはしない
　イムジン河水清く　とうとうと流る

★★★　エメラルド　★★★

【作詞】不詳
【作曲】不詳
【 歌 】不詳

１．あなたのほほにポッツリと
　　僕の涙が落ちたっけ
　　月の光は　エメラルド
　　涙の色も　エメラルド
　※あ～あの口づけを　あの人は
　　今も覚えているだろうか

２．どうしてよいのか判らない
　　そっと貴方はうなづいた
　　白いうなじは　エメラルド
　　こぼれる花も　エメラルド

　※くりかえし

３．きれいな月の出る夜は
　　いつもあなたの夢を見る
　　ほのかな夢は　エメラルド
　　覚めても消えぬ　エメラルド

　※くりかえし

★★★　襟裳岬　★★★

【作詞】岡本 おさみ
【作曲】吉田 拓郎
【 歌 】森 進一

１．北の街ではもう　悲しみを暖炉で
　　燃やし始めてるらしい
　　訳の分からない事で　悩んでいるうち
　　老いぼれてしまうから
　　黙り通した歳月を
　　拾い集めて　暖めあおう
　　襟裳の春は　何もない春です

２．君は二杯めだよね　コーヒーカップに
　　角砂糖を一つだったね
　　捨ててきてしまった　煩わしさだけを
　　くるくるかき回して
　　通り過ぎた夏の匂い
　　想い出して　なつかしいね
　　襟裳の春は　何もない春です

３．日々の暮らしは　いやでもやってくるけど
　　静かに笑ってしまおう　いじける事だけが
　　生きることだと　かいならし過ぎたので
　　身構えながら話すなんて
　　あぁ、臆病なんだよね
　　襟裳の春は　何もない春です
　　寒い友達が　訪ねてきたよ
　　遠慮はいらないから　暖まってゆきなよ

★★★　大いなる旅路　★★★

【作詞】小椋 佳
【作曲】渡辺 岳夫
【 歌 】小椋 佳

１．旅は長く遠く　肩の荷重く
　　時に堪えかねて　涙を拭けば
　　胸の奥に熱く　何かがさわいだ
　　あの日　とめどなく溢れた夢さ

　※懐かしい人が　遥かな日々が
　　時の流れ超えて　ほらめぐる旅路さ

２．風がふと運んだ　汽笛の音に
　　時の谷間きて　歩みを止めれば
　　夕陽空をこがし　心に沈んだ
　　明日も絶え間なく燃える力さ

　※くりかえし

　※くりかえし

★★★　おもかげ色の空　★★★

【作詞】伊勢 正三
【作曲】南 こうせつ
【 歌 】かぐや姫

１．別れた時　おもかげ色の空を忘れました
飲みかけのグラスに映った空を忘れました
あの日の君は笑いさえも浮かべていた
まるで僕の後ろ姿に
よろしくと言いながら

２．通り過ぎる風　それが季節　とても寒い季節
ガラス窓の隙間見つけては
狭い部屋の中へ
何故か寂しい夕暮れ時　風が止まり
そんな時にふと想い出す
優しかった人を

３．いつか君が忘れていった
レンガ色のコート
僕には少し短過ぎて
とても着れそうにない
想い出として君は
ここにおいて行こう
部屋の灯かり消しながら
また会うその日まで
部屋の灯かり消しながら
また会うその日まで

★★★　幼なじみ　★★★

【作詞】永 六輔
【作曲】中村 八大
【 歌 】デューク・エイセス

１．幼なじみの想い出は
　　青いレモンの味がする
　閉じる瞼のその裏に
　　幼い姿の君と僕

２．お手てつないで幼稚園
　　積み木　ブランコ　紙芝居
　胸に下ったハンカチの
　　君の名前が読めたっけ

３．小学校の運動会
　　君は一等　僕はビリ
　泣きたい気持ちでゴールイン
　　そのまま家まで駆けたっけ

４．ニキビの中に顔がある
　　毎朝鏡とにらめっこ
　セーラー服が良く似合う
　　君が他人に見えたっけ

５．出す宛なしのラブレター
　　書いて何度も読み返し
　あなたのイニシャル何となく
　　書いて破って捨てたっけ

６．学校出てから久しぶり
　　バッタリ出合った二人とも
アベック同士のすれ違い
　　眠れなかった夜だった

７．あくる日あなたに電話して
　　食事をしたいと言ったとき
急に感じた胸騒ぎ
　　心の霧が晴れたっけ

８．その日のうちのプロポーズ
　　その夜のうちの口づけは
幼なじみの幸せに
　　香るレモンの味がする

９．あれから２年目僕たちは
　　若い陽気なパパとママ
それから４年目幼子は
　　お手てつないで幼稚園

１０．幼なじみの想い出は
　　青いレモンの味がする
愛のしるしの愛し子は
　　遠い昔の君と僕

★★★　風　★★★

【作詞】北山 修
【作曲】端田 宣彦
【 歌 】はしだのりひことシューベルツ

１．人は誰もただ一人　旅に出て
　　人は誰もふるさとを　振り返る
　　チョッピリ寂しくて　振り返っても
　　そこにはただ風が　吹いているだけ
　　人は誰も人生につまずいて
　　人は誰も夢破れ　振り返る

２．プラタナスの枯葉舞う　冬の道で
　　プラタナスの散る音に　振り返る
　　帰っておいでよと　振り返っても
　　そこにはただ風が　吹いているだけ
　　人は誰も恋をした　切なさに
　　人は誰も耐え切れず　振り返る

　　帰っておいでよと　振り返っても
　　そこにはただ風が　吹いているだけ
　　振り返らずただ一人　一歩ずつ
　　振り返らず泣かないで　歩くんだ

★★★　悲しくてやり切れない　★★★

【作詞】サトウ・ハチロー
【作曲】加藤 和彦
【 歌 】ザ・フォーク・クルセダーズ

１．胸に　しみる空のかがやき
今日も遠く眺め　泪を流す
悲しくて　悲しくて
とてもやりきれない
このやるせないモヤモヤを
誰かに告げようか

２．白い雲は　流れ流れて
今日も夢はもつれ　わびしく揺れる
悲しくて　悲しくて
とてもやりきれない
この限りない　むなしさの
救いはないだろうか

３．深い　森のみどりに抱かれ
今日も風の唄に　しみじみ嘆く
悲しくて　悲しくて
とてもやりきれない
このもえたぎる苦しさは
明日も続くのか

★★★　季節の中で　★★★

【作詞・作曲】松山 千春
【 歌 】松山 千春

１．うつむきかけた　貴方の前を
　　静かに 時は流れ

　　めぐる めぐる季節の中で
　　貴方は 何を 見つけるだろう

　　海の青さに　戸惑うように
　　飛び交う 鳥のように
　　はばたけ高く　はばたけ強く
　　小さな　翼拡げ

　　めぐる めぐる季節の中で
　　貴方は 何を 見つけるだろう

　　昇る朝日の　まぶしさの中
　　はるかな 空をめざし
　　はばたけ高く　はばたけ強く
　　貴方の　旅が始まる

　　めぐる めぐる季節の中で
　　貴方は 何を 見つけるだろう

★★★　今日の日は　さようなら　★★★

【作詞】金子 詔一
【作曲】金子 詔一
【 歌 】森山 良子

１．いつまでも　絶えることなく
　　友達でいよう
　　明日の日を　夢見て
　　希望の道を

２．空を飛ぶ　鳥のように
　　自由に生きる
　　今日の日は　さようなら
　　また会う日まで

３．信じ合う　喜びを
　　大切にしよう
　　今日の日は　さようなら
　　また会う日まで

　　今日の日は　さようなら
　　また会う日まで

★★★　巨人の星　★★★

【作詞】東京ムービー企画部
【作曲】渡辺 岳夫
【 歌 】アンサンブル・ポッカ

１．思い込んだら　試練の道を
　　行くが男の　ど根性
　　真赤に燃える　王者のしるし
　　巨人の星を　つかむまで
　　血の汗流せ　涙をふくな
　　行け行け飛雄馬　どんと行け

２．腕も折れよと　投げ抜く闘志
　　熱球うなる　ど根性
　　泥にまみれ　マウンド踏んで
　　勝利の凱旋を　あげるまで
　　血の汗流せ　涙をふくな
　　行け行け飛雄馬　どんと行け

３．やるぞどこまでも　命をかけて
　　父と鍛えた　ど根性
　　でっかく生きろ　剛球燃えろ
　　男の誓いを　果たすまで
　　血の汗流せ　涙をふくな
　　行け行け飛雄馬　どんと行け

★★★　銀色の道　★★★

【作詞】塚田 茂
【作曲】宮川 泰
【 歌 】ダーク・ダックス

１．遠い遠い　はるかな道は
　　冬の嵐が　吹いてるが
　　谷間の春は　花が咲いてる
　　ひとり　ひとり　今日もひとり
　　銀色の　はるかな道

２．ひとりひとり　はるかな道は
　　つらいだろうが　がんばろう
　　苦しい坂も　止まればさがる
　　続く続く　明日も続く
　　銀色の　はるかな道

３．続く続く　はるかな道を
　　暗い夜空を　迷わずに
　　二人の星よ　照らしておくれ
　　近い近い　夜明けは近い
　　銀色の　はるかな道
　　はるかな道　はるかな道

★★★　くちなしの花　★★★

【作詞】水木 かおる
【作曲】遠藤 実
【 歌 】渡 哲也

１．今では指輪も　まわるほど
　　痩せてやつれた　おまえのうわさ
　　くちなしの花の　花の香りが
　　旅路の果てまでついてくる
　　くちなしの　白い花
　　お前のような　花だった

２．わがまま言って　困らせた
　　子供みたいな　あの日のお前
　　くちなしの雨の　雨の別れが
　　今でも心を締め付ける
　　くちなしの　白い花
　　お前のような　花だった

３．小さな幸せ　それさえも
　　捨ててしまった　自分の手から
　　くちなしの花を　花を見るたび
　　淋しい笑顔が　また浮かぶ
　　くちなしの　白い花
　　お前のような　花だった

★★★　心の旅　★★★

【作詞】財津 和夫
【作曲】財津 和夫
【 歌 】チューリップ

１．※あ～、だから今夜だけは　君を抱いていたい
　　あ～、明日の今頃は　僕は汽車の中
　旅立つ僕の心を　知っていたのか
　遠く離れてしまえば　愛は終わると言った
　もしも許されるなら　眠りについた君を
　ポケットに詰め込んで　そのまま連れ去りたい
※くり返し

２．※あ～、だから今夜だけは　君を抱いていたい
　　あ～、明日の今頃は　僕は汽車の中
　賑やかだった街も　今は声を静めて
　何を待っているのか　何を待っているのか
　いつもいつの時でも　僕は忘れはしない
　愛に終わりがあって　心の旅が始まる
※くり返し
※くり返し

★★★　黒の船唄　★★★

【作詞】能吉 利人
【作曲】櫻井 順
【 歌 】野坂 昭如ほか

１．男と女の　間には
　　深くて暗い河がある
　　誰も渡れぬ川なれど
　　エンヤコラ今夜も　船を出す

　※Row & row　Row & row
　　振り返るな　Row ～ row

２．お前が１７　俺１９
　　忘れもしない　この河に
　　二人の星の　ひとかけら
　　流して泣いた　夜もある

　※くり返し

３．あれから幾年し　こぎつづけ
　　大波小波　揺り揺られ
　　極楽見えたこともある
　　地獄が見えたこともある

　※くり返し

４．たとえば男は　アホウ鳥
　　たとえば女は　忘れ貝
　　真赤な潮が満ちる時
　　失くしたものを　想い出す

　※くり返し

５．お前と俺との間には
　　深くて暗い河がある
　　それでもやっぱり　逢いたくて
　　エンヤコラ今夜も　船を出す

　※くり返し

★★★　この広い野原いっぱい　★★★

【作詞】小薗江 圭子
【作曲】森山 良子
【 歌 】森山 良子

１．この広い　野原いっぱい　咲く花を
　　ひとつ残らず　あなたにあげる
　　赤いリボンの　花束にして

２．この広い　夜空いっぱい　咲く星を
　　ひとつ残らず　あなたにあげる
　　虹に輝く　グラスにつめて

３．この広い　海いっぱい　咲く船を
　　ひとつ残らず　あなたにあげる
　　青い帆に　イニシャルつけて

４．この広い　世界中の　何もかも
　　ひとつ残らず　あなたにあげる
　　だからわたしに　手紙を書いて
　　手紙を書いて

★★★　酒と泪と男と女　★★★

【作詞】河島 英五
【作曲】河島 英五
【 歌 】河島 英五

１．忘れてしまいたい事や
　どうしようもない寂しさに
　包まれたとき　男は　酒を飲むのでしょう
　飲んで　飲んで　飲まれて　飲んで
　飲んで　飲み潰れて　眠るまで　飲んで
　やがて男は　静かに眠るのでしょう

２．忘れてしまいたい事や
　どうしようもない悲しさに
　包まれたとき　女は　泪みせるのでしょう
　泣いて　泣いて　ひとり 泣いて
　泣いて　泣き疲れて　眠るまで　泣いて
　やがて女は　静かに眠るのでしょう

３．また一つ女の方が　偉く思えてきた
　また一つ男のずるさが　見えてきた
　俺は男　泣きとおすなんて出来ないよ
　今夜も　酒を　あおって　眠ってしまうのさ
　俺は男　泪はみせられないもの

　飲んで　飲んで　飲まれて飲んで
　飲んで　飲み潰れて　眠るまで飲んで
　やがて男は　静かに眠るのでしょう

★★★　ささやかなこの人生　★★★

【作詞】伊勢 正三
【作曲】伊勢 正三
【 歌 】風

１．花弁が　散った後の
桜がとても　冷たく　されるように
誰にも　心の片隅に
見せたくはない　ものがあるよね

だけど　人を愛したら
誰でも心の　扉を　閉め忘れては
傷つき　そして傷つけて
ひきかえすことの出来ない
人生に気が付く

やさしかった恋人たちよ
振り返るのはやめよう
時の流れを　背中で感じて
夕焼けに泪すればいい

２．誰かを　愛したその日には
たとえば　ちっぽけな絵葉書にも　心が動き
愛をなくしたその日には
街角の歌にも　ふと足を止めたりする

風よ季節の訪れを
告げたら　淋しい　人の心に吹け
そしてめぐる季節よ　その愛を拾って
終わりのない物語を作れ

やさしかった恋人たちよ
ささやかなこの人生を
喜びとか　悲しみとかの
言葉で決めてほしくはない

★★★　さすらい人の子守唄　★★★

【作詞】北山 修
【作曲】端田 宣彦
【 歌 】はしだのりひことシューベルツ

１．旅に疲れた　若い二人に
　さすらい人の子守唄を
　星はうたうよ　どこへ行くの
　ふるさとの　あの丘に
　もう帰れない
　今はもう　帰れない

２．浜木綿（はまゆう）の花　匂う浜辺で
　海を見つめて　泣く二人
　忘れたいのさ　悪いことを
　あの歌も　あの夢も
　もう消えてゆく
　今はもう　消えてゆく

３．涙を流す　若い二人に
　さすらい人の　子守唄を
　幼いころにささやいた
　あの海も　あの星も
　もう歌わない
　今はもう　歌わない

★★★　サボテンの花　★★★

【作詞・作曲】財津和夫
【 歌 】チューリップ

１．ほんの小さな出来事に　愛は傷ついて
君は部屋をとびだした　真冬の空の下に
編みかけていた手袋と　洗いかけの洗濯物
シャボンの泡が揺れていた
君の香りがゆれてた

たえまなくふりそそぐ　この雪のように
君を愛せばよかった
窓にふりそそぐこの雪のように
二人の愛は流れた

２．想い出つまったこの部屋を　僕も出てゆこう
ドアに鍵を下ろした時　なぜか涙がこぼれた
君が育てたサボテンは　小さな花をつくった
春はもうすぐそこまで
恋は今終わった

※この長い冬が終わるまでに
何かをみつけて生きよう
何かを信じて生きてゆこう
この冬が終わるまで

※くり返し
ラララララ・・・

★★★　思秋期　★★★

【作詞】阿久 悠
【作曲】三木 たかし
【 歌 】岩崎 宏美

１．足音もなく行き過ぎた
季節をひとり見送って
はらはら涙あふれる　私十八

無口だけれど温かい
心を持ったあのひとの
別れの言葉抱きしめ　やがて十九に

心ゆれる秋になって　涙もろい私
青春はこわれもの　愛しても傷つき
青春は忘れもの　過ぎてから気がつく

２．ふとした事で初めての
口づけをしたあの人は
ごめんといったそれきり　声もかけない

卒業式の前の日に
心を告げに来た人は
私の悩む顔見て　肩をすぼめた

誰も彼も通り過ぎて　二度とここへ来ない
青春はこわれもの　愛しても傷つき
青春は忘れもの　過ぎてから気がつく

３．ひとりで紅茶飲みながら
　　絵葉書なんか書いている
　　お元気ですかみなさん
　　いつか逢いましょう

　　無邪気な春の語らいや
　　はなやぐ夏のいたずらや
　　笑いころげたあれこれ　思う秋の日

★★★　さらば恋人　★★★

【作詞】北山 修
【作曲】筒美 京平
【 歌 】堺 正章

１．ある朝目覚めて　さらばさらば恋人よ
　　目覚めて我は見ぬ　攻め入る敵を

２．我をも連れて行け　さらばさらば恋人よ
　　連れて行け　パルチザンよ　やがて死す身を

３．いくさに果てなば　さらばさらば恋人よ
　　いくさに果てなば　山に埋めてや

４．埋めてや　かの山に　さらばさらば恋人よ
　　埋めてや　かの山に　花咲く下に

５．道行く人々　さらばさらば恋人よ
　　道行く人々　その花めでん

★★★　ジョニーの子守唄　★★★

【作詞】谷村 新司
【作曲】堀内 孝雄　　（編曲）明石 昌夫
【 歌 】アリス

１．束の間の寂しさをうずめるために
君の歌声を聴いていた
せまいホールの壁にもたれて
君の動きを追いかけていた

飛び散る汗と煙の中に
あの頃の俺がいた
オーオージョニー君は今
オージョニーどこにいるのか

２．時間つぶしの店の片隅
ふと聞こえてきた君の歌
コーヒーカップを持つ手が不意に
ふるえ出したのが恥ずかしくて

子供が出来た今でさえ
あの頃は忘れない
オーオージョニー君だけが
オージョニー俺の思い出

風の噂で聞いたけど
君はまだ燃えていると
オーオージョニーそれだけが
オージョニーただ嬉しくて

★★★　知床旅情　★★★

【作詞】森繁 久弥
【作曲】森繁 久弥
【 歌 】加藤 登紀子

１．知床の岬に　ハマナスの咲くころ
　　想い出しておくれ　俺たちのことを
　　飲んで騒いで　丘に登れば
　　はるか国後に　白夜は明ける

２．旅の情けか　酔うほどに彷徨い
　　浜に出てみれば　月は照る波の上
　　今宵こそ君を抱きしめんと
　　岩陰によれば　ピリカがわらう

３．別れの日はきた　羅臼の村にも
　　君は出てゆく　峠を越えて
　　忘れちゃいやだよ　きまぐれカラスさん
　　私を泣かすな　白いカモメよ
　　白いカモメよ

★★★　白い色は恋人の色　★★★

【作詞】北山 修
【作曲】加藤 和彦
【 歌 】ベッツィ＆クリス

１．花びらの白い色は　恋人の色
　　なつかしい白百合は　恋人の色
　　ふるさとの　あの人の
　　あの人の足元に咲く　白百合の
　　花びらの白い色は　恋人の色

２．青空の澄んだ色は　初恋の色
　　どこまでも美しい　初恋の色
　　ふるさとの　あの人と
　　あの人と肩並べ見た　あの時の
　　青空の澄んだ色は　初恋の色

３．夕焼けの赤い色は　想い出の色
　　涙で揺れていた　想い出の色
　　ふるさとの　あの人の
　　あの人のうるんでいた　瞳に映る
　　夕焼けの赤い色は　想い出の色

★★★　白い想い出　★★★

【作詞】山崎 唯
【作曲】山崎 唯
【 歌 】ダーク・ダックス

１．雪が降ってきた　ほんの少しだけれど
　　私の胸の中に　積もりそうな雪だった
　　幸せをなくした　黒い心の中に
　　冷たく淋しい　白い手がしのばれる

２．雪が解けてきた　ほんの少しだけれど
　　私の胸の中に　残りそうな雪だった
　　灰色の　雪が　私に教えてくれた
　　明るい陽射しが　すぐそこに来ていると

　　灰色の雲が　私に教えてくれた
　　明るい陽射しが
　　すぐそこに来ていると
　　すぐそこに来ていると

★★★　白い花　★★★

【作詞・作曲】山崎 ハコ

１．私の目の前の白い花　人の目にも付かず
　　咲いてるけれど　幸せそうに微笑んで
　　香りを漂わせる
　　出来ることならこの指で
　　おまえを摘んでしまいたい
　　あの人の心に誇らしく　咲いているおまえを

２．白い花びら　はにかんで
　　とっても綺麗に見えるわ
　　おまえのように咲きたかった
　　あのひとの心の中に
　　ひそかにきれいに咲くがいい
　　美しい白い花よ
　　あのひとと一緒に生きてゆけ
　　あのひとを慰めながら

３．おまえをみつめて生きてゆく
　　私の気持ち　知らないで
　　私に優しいほほえみを　返す白い花

　※ひそかにきれいに咲くがいい
　　ほほえむ白い花よ
　　あのひとといつまでも生きてゆけ
　　あのひとを慰めながら
　※くり返し

★★★　白いブランコ　★★★

【作詞】小平 なほみ
【作曲】菅原 進
【 歌 】ビリー・バンバン

１．君はおぼえているかしら　あの白いブランコ
　　風に吹かれて　ふたりでゆれた
　　あの白いブランコ
　　日暮はいつも　淋しいと
　　小さな肩をふるわせた
　　君に口づけした時に
　　優しく揺れた　白い白いブランコ

２．君はおぼえているかしら　あの白いブランコ
　　寒い夜に　寄りそってゆれた
　　あの白いブランコ
　　誰でもみんな　ひとりぼっち
　　誰かを愛していたいのと
　　冷たいほほを寄せた時に
　　静かに揺れた　白い白いブランコ

３．僕の心に　今もゆれる　あの白いブランコ
　　幼い恋を　見つめてくれた
　　あの白いブランコ
　　まだ壊れずに　あるのなら
　　君の面影　抱きしめて
　　ひとりで揺れてみようかしら
　　遠いあの日の　白い白い白いブランコ

★★★　死んだ男の残したものは　★★★

【作詞】谷川 俊太郎
【作曲】武満 徹
【 歌 】森山 良子

１．死んだ男の　残したものは
　　ひとりの妻と　ひとりの子供
　　ほかには何も　残さなかった
　　墓石一つ　残さなかった

２．死んだ女の　残したものは
　　しおれた花と　ひとりの子供
　　ほかには何も　残さなかった
　　着物一枚　残さなかった

３．死んだ子供の　残したものは
　　ねじれた足と　乾いた泪
　　ほかには何も　残さなかった
　　想い出一つ　残さなかった

４．死んだ兵士の　残したものは
　　壊れた銃と　ゆがんだ地球
　　ほかには何も　残せなかった
　　平和一つ　残せなかった

５．死んだ彼らの　残したものは
　　生きてる私　生きてるあなた
　　ほかには誰も　残っていない
　　ほかには誰も　残っていない

★★★　青春時代　★★★

【作詞】阿久 悠
【作曲】森田 公一
【 歌 】森田公一とトップギャラン

１．卒業までの　半年で
　　答えを出すと　いうけれど
　　二人が暮らした　年月を
　　何ではかれば　いいのだろう

　　青春時代が夢なんて
　　あとからほのぼの　想うもの
　　青春時代の　真ん中は
　　胸に棘さす　ことばかり

２．二人はもはや　美しい
　　季節を過ぎて　しまったか
　　あなたは少女の　時を過ぎ
　　愛を知らない　人になる

　　青春時代が　夢なんて
　　あとからほのぼの　想うもの
　　青春時代の　真ん中は
　　道に迷って　いるばかり

★★★　戦争は知らない　★★★

【作詞】寺山 修司
【作曲】加藤 ヒロシ
【 歌 】ザ・フォーク・クルセイダーズ

１．野に咲く花の　名前は知らない
　　だけども野に咲く　花が好き
　　帽子にいっぱい　摘みゆけば
　　なぜか涙が　涙が出るの

２．戦争の日々を　何も知らない
　　だけど私に　父はいない
　　父を想えば　あぁ荒野に
　　赤い夕陽が　夕陽が沈む

３．戦（いくさ）で死んだ　悲しい父さん
　　私はあなたの娘です
　　二十年後の　この故郷で
　　明日お嫁に　お嫁に行くの

４．見ていてください　はるかな父さん
　　いわし雲飛ぶ　空の下
　　戦（いくさ）知らずに　二十歳になって
　　嫁いで母に　母になるの

★★★　戦争を知らない子供たち　★★★

【作詞】北山 修
【作曲】杉田 次郎
【 歌 】ジローズ

１．戦争が終わって　僕らは生まれた
　　戦争を知らずに　僕らは育った
　　大人になって　歩き始める
　　平和の歌を　口ずさみながら
　　僕らの名前を　覚えて欲しい
　　戦争を知らない　子供たちさ

２．若過ぎるからと　許されないなら
　　髪の毛が長いと　許されないなら
　　今の私に　残っているのは
　　涙をこらえて　歌うことだけさ
　　僕らの名前を　覚えて欲しい
　　戦争を知らない　子供たちさ

３．青空が好きで　花弁が好きで
　　いつでも笑顔の　素敵な人なら
　　誰でも　一緒に　歩いて行こうよ
　　きれいな夕陽の　輝く小道を
　　僕らの名前を　覚えて欲しい
　　戦争を知らない　子供たちさ

★★★　武田節　★★★

【作詞】米山 愛紫
【作曲】明本 京静
【 歌 】三橋 美智也

１．甲斐の山々　陽に映えて
　　われ出陣に　うれいなし
　　おのおの馬を　飼いたるや
　　妻子（つまこ）につつが　あらざるや
　　あらざるや

２．祖霊ましますこの山河
　　敵にふませて　なるものか
　　人は石垣　人は城
　　情けは味方　仇は敵　仇は敵

　　（詩吟）
　　疾（と）きこと　風の如く
　　徐（しず）かなること　林の如し
　　侵掠（しんりゃく）すること　火の如く
　　動かざること　山の如し

３．躑躅（つつじ）ケ崎の　月さやか
　　宴（うたげ）を尽くせ　明日よりは
　　各々（おのおの）京を　目指しつつ
　　雲と興れや　武田武士　武田武士

★★★　ただお前がいい　★★★

【作詞・作曲】小椋 佳
【 歌 】小椋 佳、中村 雅俊

１．ただお前がいい
　煩わしさに　投げた小石の
　放物線の　軌跡の上で
　通り過ぎて来た　　青春のかけらが
　飛び跳ねて見えた
　その照り返しを　そのままに映していたお前

　また会う約束などすることもなく
　それじゃまたなと別れる時の
　お前がいい

２．ただお前がいい
　落とすものなど　何にもないのに
　伝言板の左の端に　今日もまた一つ
　忘れ物をしたと　誰にともなく書く
　その繰り返しを　その帰り道に笑うお前

　また会う約束などすることもなく
　それじゃまたなと別れる時の
　お前がいい
　その照り返しを　そのままに映していたお前

　また会う約束などすることもなく
　それじゃまたなと別れる時の
　お前がいい

★★★　翼をください　★★★

【作詞】山上 路夫
【作曲】村井 邦彦
【 歌 】赤い鳥

１．いま私の　ねがいごとが
　　かなうならば　翼がほしい
　　この背中に　鳥のように
　　白い翼　つけて下さい

　　この大空に　翼拡げ　飛んでいきたいよ
　　悲しみの無い　自由な空に　翼はためかせ
　　行きたい

２．子供のとき　夢みたこと
　　いまも同じ　夢にみている

　　この大空に　翼拡げ　飛んでいきたいよ
　　悲しみの無い　自由な空に　翼はためかせ
　　行きたい

★★★　どうしてこんなに悲しいんだろう　★★★
【作詞】吉田 拓郎
【作曲】吉田 拓郎
【 歌 】吉田 拓郎

１．悲しいだろう　みんな同じさ
　　おんなじ夜を　迎えてる
　　風の中を　ひとり歩けば
　　枯れ葉が肩で　ささやくよ

２．どうしてだろう　この空しさは
　　誰かに会えば　静まるか
　　こうして空を　見上げていると
　　生きてる事さえ　空しいよ

３．これが自由と　いうものかしら
　　自由になると　淋しいのかい
　　やっと独りに　なれたからって
　　涙が出たんじゃ　困るのさ
　　やっぱり僕は　ひとにもまれて
　　みんなの中で　生きるのさ

４．ひとの心は　温かいのさ
　　明日はもう一度　ふれたいな
　　独りごとです　気にとめないで
　　時にはこんなに　思うけど
　　明日になると　いつものように
　　こころを閉ざしている僕さ

★★★　東京　★★★

【作詞】森田 貢
【作曲】森田 貢
【 歌 】マイ・ペース

１．最終電車で　君にさよなら
　いつまた逢えると　聞いた君の言葉が
　走馬灯のように　めぐりながら
　僕の心に　火をともす
　何も思わずに　電車に飛び乗り
　君の東京へ東京へと　出かけました
　いつもいつでも　夢と希望を持って
　君は東京で生きていました
　東京へはもう何度も行きましたね
　君の住む美し都
　東京へは　もう何度も行きましたね
　君が咲く花の都

２．君はいつでも　やさしく微笑む
　だけど心は　むなしくなるばかり
　いつか二人で　暮らすことを夢見て
　今は離れて　生きてゆこう
　君に笑って　さよなら言って
　電車は走る　遠い道を
　あぁ今すぐにでも　戻りたいんだ
　君の住む街　花の東京
　東京へは　もう何度も行きましたね
　君の住む　美し都
　東京へは　もう何度も行きましたね
　君が咲く　花の都

★★★　遠い世界に　★★★

【作詞】西岡 たかし
【作曲】西岡 たかし
【 歌 】五つの赤い風船

１．遠い世界に　旅に出ようか
　　それとも赤い　風船に乗って
　　雲の上を　歩いてみようか
　　太陽の光で　虹をつくった
　　お空の風を　もらって　返って
　　暗い霧を　吹き飛ばしたい

２．僕らの住んでる　この街にも
　　明るい太陽　顔をみせても
　　こころの中は　いつも悲しい
　　力を合わせて　生きることさえ
　　今ではみんな　忘れてしまった
　　だけど僕たち　若者がいる

３．雲に隠れた　小さな星は
　　これが日本だ　私の国だ
　　若い力を　体に感じて
　　みんなで歩こう　長い道だが
　　ひとつの道を　力の限り
　　明日の世界を　さがしに行こう

★★★　友よ　★★★

【作詞】岡林 信康・鈴木 孝雄
【作曲】岡林 信康
【 歌 】岡林 信康

１．友よ　夜明け前の　闇の中で
　　友よ　戦いの　炎を燃やせ

※夜明け近い　夜明けは近い
　　友よ　この闇の向こうには
　　友よ　輝く明日がある

２．友よ　君の涙　君の汗が
　　友よ　報われる　その日が来る

※くり返し

３．友よ　登りくる朝陽の中で
　　友よ　喜びを分かち合おう

　※くり返し

４．友よ　夜明け前の闇の中で
　　友よ　戦いの炎を燃やせ

　※くり返し

★★★　なごり雪　★★★

【作詞】伊勢 正三
【作曲】伊勢 正三
【 歌 】イルカ

１．汽車を待つ君の横で僕は　時計を気にしてる
季節はずれの雪が　降ってる
「東京で見る雪はこれが　最後ね」と
さみしそうに君がつぶやく
なごり雪も　降るときを知り
ふざけ過ぎた季節の後で
今春がきて　君は　きれいになった
去年よりずっと　きれいになった

２．動き始めた汽車の窓に　顔をつけて
君は何か言おうとしている
君のくちびるが「さようなら」と
動くことが怖くて　下を向いてた
時がゆけば　幼い君も
大人になると　気づかないまま
今春がきて　君は　きれいになった
去年よりずっと　きれいになった

君が去った　ホームに残り
落ちては融ける　雪を見ていた
今春が来て　君は　きれいになった
去年よりずっと　きれいになった

★★★　２２歳の別れ　★★★

【作詞・作曲】伊勢 正三
【 歌 】かぐや姫

１．あなたに「さようなら」って
　　言えるのは　今日だけ
　　明日になって　またあなたの
　　暖かい手に　触れたら　きっと
　　言えなくなってしまう
　　そんな気がして
　　私には　鏡に映った
　　あなたの姿を　みつけられずに
　　私の目の前にあった
　　幸せにすがりついてしまった。
２．私の誕生日に２２本の
　　ローソクを立て
　　ひとつひとつが　みんな君の
　　人生だねって言って　１７本目からは
　　いっしょに火をつけたのが
　　昨日のことのように
　　今はただ　５年の月日が
　　永過ぎた春と　いえるだけです
　　あなたの知らないところへ
　　嫁いでゆく　私にとって

　　ひとつだけ　こんな私の
　　わがまま聞いてくれるなら
　　あなたは　あなたのままで
　　変わらずにいて下さい
　　そのままで・・・

★★★　橋を作ったのは　この俺だ　★★★

【作詞】TOM　PAXTON
【作曲】TOM　PAXTON
【 歌 】高石 ともや

１．※橋を作ったのは　この俺だ
　　道路を作ったのも　この俺だ
　　強いこの腕と　この体で
　　この国をつくったのは　俺たちだ

２．むかしむかしの俺たちの頃
　　暗い森を切り開き
　　畑を耕し家を建てて
　　この国をつくったのは　俺たちだ
　※くり返し

３．誰がこの国をつくったのか
　　エライ社長さん　代議士さんが
　　命令したから出来た訳じゃない
　　俺たちがいたから出来たのさ
　※くり返し

４．つくってゆくのは　俺たちさ
　　動かしてるのも　俺たちさ
　　歌っているのも　俺たちさ
　　この国をつくったのは　俺たちだ

★★★　二十歳のめぐり逢い　★★★

【作詞・作曲】田村 功夫

【 歌 】シグナル

１．風に震える　オレンジ色の
枯れ葉の舞い散る　停車場で
君と出会った　９月の午後
男と女のめぐり逢い
君の話す　身の上話しが
いつか涙で　とぎれてしまう
命を賭けた恋に破れて
心は傷ついて
人を信じることができない
そんな女だった

２．月日は流れて　季節は変わり
いつしか二人は　愛し合う
今日は君の誕生日
ワインを飲んで　祝おうね

※２０歳になて　大人になって
出直すんだね　過去など忘れ
手首の傷は　消えないけれど
心の痛みは
僕が癒してあげる　優しさで
君のためなら

※くり返し
君のためなら

★★★　花はどこへ行った　★★★

【作詞】P.SEEGER　【訳詩】おおた たかし
【作曲】P.SEEGER
【 歌 】倍賞 千恵子

１．野に咲く花は　どこへ行く
　　野に咲く花は　きよらか
　　野に咲く花は　少女の胸に
　　そっと優しく　いだかれる

２．可愛い少女は　どこへ行く
　　可愛い少女は　微笑む
　　可愛い少女は　若者の胸に
　　恋の心　あずけるのさ

３．その若者は　どこへ行く
　　その若者は　勇んで
　　その若者は　戦いに行く
　　力強く　別れを告げ

４．戦い終わり　どこへ行く
　　戦い終わり　静かに
　　戦い終わり　土に眠る
　　安らかなる　眠りにつく

★★★　花　嫁　★★★

【作詞】北山 修
【作曲】端田 宣彦、坂庭 省悟
【 歌 】クライマックス

１．花嫁は　夜汽車に乗って
　　嫁いで行くの
　　あの人の　写真を胸に
　　海辺の町へ
　　命かけて　燃えた　恋が結ばれる
　　帰れない　何があっても
　　心に誓うの

２．小さな　カバンに詰めた
　　花嫁衣装は
　　故郷の　丘に咲いてた
　　野菊の花束
　　命かけて　燃えた　恋が結ばれる
　　何もかも　捨てた花嫁
　　夜汽車に乗って

★★★　バラが咲いた　★★★

【作詞】浜口 庫之助
【作曲】浜口 庫之助
【 歌 】マイク 眞木

１．バラが咲いた　バラが咲いた
真っ赤なバラが
さびしかった僕の庭に　バラが咲いた

たった一つ咲いたバラ　小さなバラで
さびしかった僕の庭が　明るくなった

バラよ　バラよ　小さなバラ
いつまでも　そこに咲いてておくれ

バラが咲いた　バラが咲いた
真っ赤なバラが
さみしかった僕の庭が　明るくなった

★★★　冬が来る前に　★★★

【作詞】後藤 悦次郎
【作曲】浦野 直
【 歌 】紙ふうせん

１．坂の細い径を　夏の雨にうたれ
　　言葉　さがしつづけて　別れた二人

　　小麦色に灼けた　肌は色もあせて
　　黄昏　私ひとり　海を見るの

※冬が来る前に　もう一度　あの人と
　めぐり逢いたい
　冬が来る前に　もう一度　あの人と
　めぐり逢いたい

２．秋の風が吹いて　街はコスモス色
　　あなたからの便り　風に聴くの

　　落ち葉つもる径は　夏の思い出径
　　今日も　私ひとり　バスを待つの

※くり返し

★★★　冬の日の恋　★★★

【作詞】不詳
【作曲】不詳
【 歌 】不詳

１．冬の日の恋は　冷たくて
　　憎んでみたが　忘られず
　　鏡に映る　炎のように
　　情熱もなくて　燃えるのさ
　　ベーゼもせずに別れてきたが
　　ひとりで想えば　何となく愛しくなるの
　　自分ではどうにもできなくて
　　胸を抱きしめて　嘆くのさ

２．鉛色の重い　空の下
　　若い日も　いつか色あせて
　　並木の隅の　埋もれ木に
　　小雨降り注ぐ　我が想い
　　恋とは　かくも悲しいものか
　　燃えてはあきらめ
　　また燃える空しき炎
　　冬の日の恋は　冷たくて
　　別れたくても　忘られぬ

★★★　冬のリビエラ　★★★

【作詞】松本 隆
【作曲】大瀧 詠一
【 歌 】森 進一

１．彼女（あいつ）によろしく　伝えてくれよ
今ならホテルで　寝ているはずさ
泣いたら　窓辺の　ラジオをつけて
陽気な　歌でも　聴かせてやれよ
アメリカの貨物船が　桟橋で待ってるよ
冬のリビエラ　男ってやつは
港を出てゆく　船のようだね
哀しければ　哀しいほど　黙り込むもんだね

２．彼女（あいつ）は俺には　すぎた女さ
別れの気配を　ちゃんと読んでて
上手に　隠した　旅行カバンに
外した指輪と　酒の小瓶さ
優しさが　霧のように
シュロの木を濡らしてる
冬のリビエラ　人生ってやつは
思い通りに　ならないものさ
愛しければ　愛しいほど　背中合わせになる

皮のコートの　ボタンひとつ
取れかけて　サマにならない
冬のリビエラ　男ってやつは
港を出てゆく　船のようだね
哀しければ　哀しいほど　黙り込むもんだね

★★★　また逢う日まで　★★★

【作詞】阿久 悠
【作曲】筒美 京平
【 歌 】尾崎 紀世彦

１．また逢う日まで　逢える時まで
別れのその訳は　話したくない
何故か寂しいだけ
何故か空しいだけ
たがいに傷つき　すべてを失くすから
二人でドアをしめて
二人で名前消して
その時心は何かを　話すだろう

２．また逢う日まで　逢える時まで
あなたは何処にいて　何をしているの
それは知りたくない
それは聞きたくない
たがいに気遣い　昨日に戻るから
二人でドアを閉めて
二人で名前消して
その時心は何かを　話すだろう

二人でドアを閉めて
二人で名前消して
その時心は何かを　話すだろう

★★★　岬めぐり　★★★

【作詞】山上 路夫
【作曲】山本 厚太郎
【 歌 】山本コータローとウィークエンド

１．あなたがいつか　話してくれた
　　岬を僕は　ひとりで訪ねてきた
　　二人で行くと　約束したが
　　今ではそれも　かなわないこと

　　岬めぐりの　バスは走る
　　窓にひろがる　青い海を
　　悲しみ深く　胸に沈めたら
　　この旅終えて　街に帰ろう

２．幸せそうな　人々たちと
　　岬をまわる　ひとりで僕は
　　砕ける波の　あの激しさで
　　あなたをもっと愛したかった

岬めぐりのバスは走る
　　窓にひろがる　青い海を
　　悲しみ深く　胸に沈めたら
　　この旅終えて　街に帰ろう

　　岬めぐりの　バスは走る
　　僕はどうして　生きてゆこう
　　悲しみ深く　胸に沈めたら
　　この旅終えて　街に帰ろう

★★★　ミヨちゃん　★★★

【作詞・作曲】平尾 昌晃
【 歌 】平尾 昌晃
（セリフ）
みなさん　まぁ僕の話を聞いてください
ちょうど僕が　高校二年生で
あの娘も・・・
ミヨちゃんも高校二年の時でした

１．僕のかわいい　ミヨちゃんは
　　色が白くて　ちっちゃくて
　　前髪たらした　かわいい娘
　　あの娘は高校二年生

２．ちっとも美人じゃ　ないけれど
　　なぜか僕をひきつける
　　つぶらなひとみに　出会う時
　　なんにもいえない　僕なのさ

３．それでもいつかは　会える日を
　　胸に描いて歩いていたら
　　どこかのだれかと　よりそって
　　あの娘が笑顔で　話してる

４．父さん母さん　恨むじゃないが
　　も少し勇気があったなら
　　も少し器量よく　生まれてたら
　　こんなことには　なるまいに

（セリフ）
そんなわけで　僕の初恋は
見事失敗に終わりました
こんな僕だから
恋人なんて　いつのことやら・・・
でも　せめて夢だけは
いつまでも　持ち続けたいんです

５．いまにみていろ　僕だって
　　すてきなかわいい　恋人を
　　きっと見つけて　みせるから
　　ミヨちゃんそれまで　サヨウナラ
　　サヨウナラ・・・

★★★　水虫の唄　★★★

【作詞】山田 真一・(補作詞) 足柄 金太
【作曲】山田 真一・(補作曲) 河田 藤作
【 歌 】ザ・ズートルビー

１．どんなにどんなに　離れていても
　　ぼくは君を　忘れはしない
　　夏になると　思い出す
　　君と歩いた　あの渚

２．せつなくうずく　水虫は
　　君とぼくとの　愛のしるし
　　どんなにどんなに　離れていても
　　ぼくは君を　忘れはしない

３．君のうつした　水虫は
　　今でもぼくを　悩ませる
　　せつなくうずく　水虫は
　　君とぼくとの　愛のしるし

　　どんなにどんなに　離れていても
　　ぼくは君を　忘れはしない

★★★　若者たち　★★★

【作詞】藤田 敏雄
【作曲】佐藤 勝
【 歌 】坂本 九

１．君の行く道は　果てしなく遠い
　　だのに何故　歯を食いしばり
　　君は行くのか　そんなにしてまで

２．君のあの人は　今はもういない
　　だのに何故　何を探して
　　君は行くのか　あてもないのに

３．君の行く道は　希望へと続く
　※空にまた　陽が昇るとき
　　若者はまた　歩きはじめる

　※くり返し

★★★　別れうた　★★★

【作詞】中島 みゆき
【作曲】中島 みゆき
【 歌 】中島 みゆき

１．途に倒れて誰かの名を
　　呼び続けたことはありますか
　　他人ごとに言うほど黄昏は
　　優しい人好しじゃありません

　　別れの気分に味をしめて
　　あなたは私の戸をたたいた
　　私は別れを忘れたくて
　　あなたの目を見ずに戸を開けた

※別れはいつもついてくる
　　幸せの後ろをついてくる
　　それが私のクセなのか
　　いつも目覚めればひとり

　　あなたは愁いを身に付けて
　　うかれ街あたりで名を上げる
　　眠れない私はつれづれに
　　別れうた今夜もくちずさむ

２．誰が名付けたか　私には
別れうた歌いの影がある
好きで別れうた歌うはずもない
他に知らないから　口ずさむ

恋の終わりはいつもいつも
立ち去る者だけが美しい
残されて戸惑う者たちは
追いかけて　焦れて　泣き狂う

※くり返し

★★★　別れの朝　★★★

【作詞】なかにし 礼
【作曲】Udo Juergens
【 歌 】高橋 真梨子

１．別れの朝　ふたりは　さめた紅茶　のみほし
　　さようならの　口づけ　笑いながら　交わした

　　別れの朝　ふたりは　白いドアを　開いて
　　駅につづく　小径を　何も言わず　歩いた

　　言わないで　慰めは　涙を誘うから
　　触れないで　この指に　心が　乱れるから

２．やがて汽車は　出てゆき　一人残る　私は
　　ちぎれる程　手をふる　貴方の目を　見ていた

　　言わないで　慰めは　涙を誘うから
　　触れないで　この指に　心が　乱れるから

　　やがて汽車は　出てゆき　一人残る　私は
　　ちぎれるほど　手をふる
　　貴方の目を　見ていた

　　貴方の目を　見ていた

―　なつかしいメロディ　―

★★★　青い山脈　★★★

【作詞】西條 八十
【作曲】服部 良一
【 歌 】藤山 一郎

１．若く明るい　歌声に
　　雪崩は消える　花も咲く
　　青い山脈　雪割花
　　空の果て
　　今日も我らの　夢を呼ぶ

２．古い上着よ　さようなら
　　さみしい夢よ　さようなら
　　青い山脈　バラ色雲へ
　　憧れの
　　旅の乙女に　鳥も啼く

３．雨に濡れてる　焼け跡の
　　名もない花も振り仰ぐ
　　青い山脈　輝く峰の
　　なつかしさ
　　見れば涙が　またにじむ

４．父も夢見た　母も見た
　　旅路の果ての　その果ての
　　青い山脈　緑の谷へ
　　旅を行く
　　若い我らに　鐘が鳴る

★★★　学生時代　★★★

【作詞】平岡 精二
【作曲】平岡 精二
【 歌 】ペギー 葉山

１．蔦のからまるチャペルで　祈りをささげた日
夢多かりしあの頃の　想い出をたどれば
懐かしい友の顔が　ひとりひとり浮かぶ
重いカバンを抱えて　通ったあの道
秋の日の　図書館の　ノートとインクの匂い
枯れ葉散る窓辺　学生時代

２．賛美歌を歌いながら　清い死を夢見た
何の装いもせずに　口数も少なく
胸の中に秘めていた　恋への憧れは
いつもはかなく破れて　一人書いた日記
本棚に　目をやれば　あのころ読んだ小説
過ぎし日よ私の　学生時代

３．ローソクの灯に輝く　十字架を見つめて
白い指を組みながら　うつむいていた友
その美しい横顔　姉のように慕い
いつまでも変わらずにと　願った幸せ
テニスコート　キャンプファイヤー
懐かしい日々は帰らず
素晴らしいあの頃　学生時代

★★★　籠の鳥　★★★

【作詞】千野 かおる
【作曲】鳥取 春陽
【 歌 】

１．逢いたさ　見たさに　怖さを忘れ
　　暗い夜道を　ただ一人

２．逢いに来たのに　なぜ出て逢わぬ
　　俺の呼ぶ声　忘れたか

３．あなたの呼ぶ声　忘れはせぬが
　　わたしゃ出られぬ　籠の鳥

４．籠の鳥でも　知恵ある鳥は
　　人目忍んで　逢いに来る

５．人目忍べば　世間の人が
　　怪しい女と　指をさす

６．指をささりょと　かまいはせぬが
　　出るに出られぬ　籠の鳥

★★★　北上夜曲　★★★

【作詞】菊地 規
【作曲】安藤 睦夫
【 歌 】和田弘とマヒナスターズ

１．匂いやさしい白百合の
　　濡れているよな　あの瞳
　　想い出すのは　想い出すのは
　　北上河原の月の夜

２．宵の灯ともすころ
　　心ほのかな　初恋を
　　想い出すのは　想い出すのは
　　北上河原のせせらぎに

３．銀河の流れ仰ぎつつ
　　星を数えた　君と僕
　　想い出すのは　想い出すのは
　　北上河原の星の夜

４．僕は生きるぞ　生きるんだ
　　君の面影　胸に秘め
　　想い出すのは　想い出すのは
　　北上河原の　初恋よ

★★★　ゲイシャ・ワルツ　★★★
【作詞】西条 八十
【作曲】古賀 政男
【 歌 】神楽坂 はん子

１．あなたのリードで　島田もゆれる
　　チークダンスの　なやましさ
　　みだれる裾も　はずかしうれし
　　ゲイシャ・ワルツは　思い出ワルツ

２．空には三日月　お座敷帰り
　　恋に重たい　舞扇
　　逢わなきゃ良かった　今夜のあなた
　　これが苦労の　はじめでしょうか

３．あなたのお顔を　見たうれしさに
　　呑んだら酔ったわ　踊ったわ
　　今夜はせめて　介抱してね
　　どうせ一緒にゃ　暮らせぬ身体

４．気強くあきらめ　帰した夜は
　　更けて涙の　通り雨
　　遠く泣いてる　新内流し
　　恋の辛さが　身に沁みるのよ

★★★　酋長の娘　★★★

【作詞・作曲】石田 一松
※昭和５年

１．私のラバさん　酋長の娘
　　色は黒いが　南洋じゃ美人

２．赤道直下　マーシャル諸島
　　ヤシの木蔭で　テクテク踊る

３．踊れ踊れ　どぶろく飲んで
　　明日は嬉しい　首の祭り

４．ラララララ　ララララ～ラ　ラララララ　ララララ
　　ラララララ　ラララララ　ラララララ　ララララ

５．踊れ踊れ　踊らぬものに
　　誰がお嫁に　いくものか

６．きのう浜でみた　酋長の娘
　　今日はバナナの　木蔭で眠る

７．私のラバさん　酋長の娘
　　色は黒いが　南洋じゃ美人

★★★　惜別の唄　★★★

【作詞】島崎 藤村
【作曲】藤江 英輔
【 歌 】小林 旭、倍賞 千恵子ほか

１．遠き別れに　耐えかねて
　　この高殿に　登かな
　　悲しむなかれ　我が友よ
　　旅の衣を　ととのえよ

２．別れと言えば　昔より
　　この人の世の　常なるも
　　流るる水を　眺むれば
　　夢はずかしき　涙かな

３．君がさやけき　目の色も
　　君くれないの　くちびるも
　　君がみどりの　黒髪も
　　またいつか見ん　この別れ

４．甲斐なきことを　言うなかれ
　　甲斐なきことを　説くなかれ
　　甲斐なきことを　嘆くより
　　来たりてうまき　酒に酔え

★★★　南国土佐を後にして　★★★

【作詞】武政 英索
【作曲】武政 英索
【 歌 】ペギー 葉山

１．南国土佐を後にして
　　都へ来てから　幾歳（いくとせ）ぞ
　　思いだします　故郷の友が
　　門出に歌った　よさこい節を
　　土佐の高知の　播磨屋橋で
　　坊さんかんざし　買うをみた

２．月の浜辺で　焚火（たきび）を囲み
　　しばしの娯楽の　ひと時を
　　わたしも自慢の　声張り上げて
　　歌うよ土佐の　よさこい節を
　　みませ見せましょ　浦戸をあけて
　　月の名所は　桂浜

３．国の父さん　室戸の沖で
　　鯨釣ったと　言う便り
　　私も負けずに　励んだ後で
　　歌うよ土佐の　よさこい節を
　　言うたちいかんちゃ　おらんくの池にゃ
　　潮吹く魚が　泳ぎよる
　　よさこい　よさこい

★★★　北帰行　★★★

【作詞】宇田 博
【作曲】宇田 博
【 歌 】小林 旭

１．窓は夜露に濡れて
　　都すでに遠のく
　　北へ帰る旅人ひとり
　　涙ながれてやまず

２．富も名誉も恋も
　　遠きあこがれの日の
　　淡き望みははかなき心
　　恩愛我を去りぬ

３．今は黙してゆかん
　　何をまた語るべき
　　さらば祖国わがふるさとよ
　　明日は異郷の旅路

※旅順高寮歌

★★★　喜びも悲しみも幾歳月　★★★

【作詞】木下 忠司
【作曲】木下 忠司
【 歌 】若山 彰

１．おいら岬の　灯台守りは
　　妻と二人で　沖行く船の
　　無事を　祈って　灯をかざす　灯をかざす

２．冬が来たぞと　海鳥鳴けば
　　北は雪国　吹雪の夜の
　　沖に霧笛が　呼びかける　呼びかける

３．離れ小島に　南の風が
　　吹けば春来る　花の香だより
　　遠いふるさと　想い出す　想い出す

４．星を数えて　波の音聴いて
　　共に過ごした　幾歳月の
　　喜び　悲しみ　目に浮かぶ　目に浮かぶ

★★★　旅愁　★★★

【作詞】片桐 和子
【作曲】平尾 昌晃
【 歌 】西崎 みどり

１．あなたをさがして　此処まで来たの
　　恋しいあなた　あなた　いま何処に
　　風にゆれ　雨にぬれて
　　恋は今も今も　燃えているのに　ああ～・・・
　　白いほほえみも　うしろ姿も
　　遠い夢の中　あなたはいない

２．わたしの夜空に　星は見えない
　　あなたに逢える　逢える　その日まで
　　鳥は飛び　鳥は帰る
　　それはいつもいつも　花の咲く頃　ああ～・・・
　　白いほほえみも　うしろ姿も
　　遠い夢の中　あなたはいない

― 唱　歌 ―

★★★　家　路　★★★

※ドヴォルザーク：交響曲第９番「新世界」

【作詞】堀内 敬三

【作曲】アントニン・ドヴォルザーク

１．遠き山に　陽は落ちて
星は空を　散りばめぬ
今日の技を　なし終えて
心かろく　安らえば
風は涼し　この夕べ
いざや楽し　まどいせん
まどいせん

２．闇に燃えし　かがり火は
炎（ほのお）今は　静まりて
眠れやすく　憩えよと
誘うごとく　消えゆけば
安き御手に　守られて
いざや楽し　夢を見ん
夢を見ん

★★★　四季の歌　★★★

【作詞】荒木 とよひさ
【作曲】荒木 とよひさ
【 歌 】芹 洋子

１．春を愛する人は　心清き人
　　スミレの花のような　僕の友達

２．夏を愛する人は　こころ強き人
　　岩を砕く波のような　僕の父親

３．秋を愛する人は　こころ深き人
　　愛を語るハイネのような　僕の恋人

４．冬を愛する人は　こころ広き人
　　雪を溶かす大地のような　僕の母親

５．春夏秋冬愛して　僕らは生きている
　　太陽の光を浴びて　明日の世界へ

★★★　夏の思い出　★★★

【作詞】江間 章子
【作曲】中田 喜直
【 歌 】

１．夏がくれば思いだす
　　遥かな尾瀬　遠い空
　　霧の中に浮かび来る
　　やさしい影　野の小路
　　水芭蕉の花が　咲いている
　　夢見て咲いている　水のほとり
　　石楠花（シャクナゲ）色にたそがれる
　　遥かな尾瀬　遠い空

２．夏が来れば思いだす
　　遥かな尾瀬　野の小路
　　花の中にそよそよと
　　揺れゆれる浮島よ
　　水芭蕉の花が匂ってる
　　夢見て匂っている　水のほとり
　　まなこつぶれば懐かしい
　　遥かな尾瀬　遠い空

★★★　故郷（ふるさと）　★★★

※文部省唱歌
【作詞】高野 辰之
【作曲】岡野 貞一

１．兎追ひし　彼の山
　　小鮒釣し　彼の川
　　夢は今も　巡りて
　　忘れ難き　故郷

２．如何にいます　父母
　　恙無しや　友がき
　　雨に風につけても
　　想ひ出づる　故郷

３．志を果たして
　　いつの日にか帰らん
　　山は青き故郷
　　水は清き故郷

★★★　旅愁　★★★

【作詞】犬童 球渓
【作曲】John･P･Ordway
【 歌 】日本の唱歌

１．ふけゆく　秋の夜　旅の空の
　　わびしき　想いに　ひとり悩む
　　恋しや　ふるさと　なつかし父母
　　夢路に　たどるは　里の家路

２．窓うつ　嵐に　夢も破れ
　　はるけき　彼方に　心迷う
　　恋しや　ふるさと　なつかし父母
　　想いに　浮かぶは　森のこずえ

ー　民　謡　ー
（国　内）

★★★　こきりこ　★★★

【作詞】・【作曲】不詳

※日本最古の民謡（五箇山）

１．筑子（こきりこ）の竹は　七寸五分じゃ
　　長いは袖の　カナカイじゃ
　※窓のサンサも　デデレコデン
　　晴れのサンサも　デデレコデン

２．踊りたか踊れ　泣く子をいくせ
　　ササラは窓の許にある　　※くり返し

３．向かいの山を　担ことすれば
　　荷縄が切れてかづかれん　　※くり返し

４・向かいの山に　啼くヒヨドリは
　　啼いては下がり　啼いては上がり
　　朝草刈りの目をば覚ます
　　朝草刈りの目を覚ます　　※くり返し

５．月見て歌ふ　放下のコキリコ
　　竹の夜声の澄みわたる　　※くり返し

６．万のササイ放下すれば
　　月は照るなり霊祭　　※くり返し

７．波の屋島を遁れ来て
　　薪樵るてふ深山辺に
　　烏帽子、狩衣脱ぎ棄てて
　　今は越路の杣刀　　※くり返し

８．娘十七八大唐の藁じゃ
　　打たねど腰がしなやかな　　※くり返し

９．想いと恋と笹舟に乗せりゃ
　　想いは沈む恋は浮く　　※くり返し

１０・イロハの文字に心が解けて
　　此身をせこに任せつれ　　※くり返し

１１．かぞいろ知らで一人の処女が
　　いつしかなして岩田帯　　※くり返し

１２．向いの山に　光るもんにゃ何じゃ
　　星か蛍か　黄金の虫か
　　今来る嫁の松明かりならば
　　さしあげてもやしゃれやさ男　　※くり返し

１３．漆千杯朱千杯　黄金の鶏一番
　　朝日かがやき夕日さす
　　三つ葉うつ木の樹の下に　　※くり返し

１４．色は匂へど散りぬるを
　　我世誰ぞ常ならむ
　　憂ゐの奥山今日越えて
　　浅き夢みし酔ひもせず　　※くり返し

★★★　竹田の子守唄　★★★

※京都府

【作詞】【作曲】
【 歌 】赤い鳥

１．守りもいやがる　盆から先にゃ
　　雪もちらつくし　子も泣くし

２．盆が来たとて　何嬉しかろう
　　帷子（かたびら）は無し　帯は無し

３．久世の大根飯　貴重な飯
　　またも竹田の　おんな飯

４．この子よう泣く　守りをばいじる
　　守りも一日　痩せるやら

５．早よも行きたや　この在所越えて
　　向こうに見えるは　親のうち
　　向こうに見えるは　親のうち

★★★　百舌鳥（もず）が枯れ木で　★★★

【作詞】サトウ ハチロー
【作曲】徳富 繁
【 歌 】

１．百舌鳥が枯れ木で啼いている
おいらは藁をたたいてる
綿びき車は　おばあさん
コットン　水車も　回ってる

２．みんな去年と同じだよ
だけども　足（た）んねえ　ものがある
兄さのまき割る　音がねえ
バッサリ　まき割る　音がねえ

３．兄さは　満洲へ行っただよ
鉄砲が涙で　光っただ
百舌鳥よ寒いと　啼くがよい
兄さは　もっと　寒かろう

ー　民　謡　ー
(海　外)

★★★　赤い河の谷間　★★★
※アメリカ民謡

１．サボテンの花　咲いてる
　　砂と岩の西部
　　夜空に星が光り
　　オオカミ鳴く　西部

２．赤い河の　谷間よ
　　切り立つ岩山よ
　　昼なお暗い森よ
　　通る人も絶えて

３．牛の声は　みどりの
　　草原の　かなたへ
　　高く低く　流れる
　　赤い河の　谷間

★★★　アルプス一万尺　★★★

※アメリカ民謡

【作詞】　【作曲】・・・不詳

１．アルプス一万尺　　小槍の上で
　　アルペン踊りを　　さぁ踊りましょ
　　ランララ　ラララ・・・

２．お花畑で　　昼寝をすれば
　　チョウチョが飛んで来て　　キスをする

３．一万尺に　　テントを張れば
　　星のランプに　　手が届く

４．槍と穂高は　　隠れて見えぬ
　　見えぬ辺りが　　槍・穂高

５．岩魚釣る子に　　山路を聞けば
　　雪の彼方を　　竿で指す

６．名残り尽きない　　大正池
　　またも見返す　　穂高岳

７．まめで逢いましょ　　また来年も
　　山に桜が　　咲くころに

★★★　一日の終わり　★★★

※フランス民謡
【作詞】串田 孫一

１．星影さやかに
　　静かに更けぬ
　　集いの喜び
　　歌うは楽し

２．燃えろよ燃えろよ
　　炎よ燃えろ
　　火の粉を巻き上げ
　　天まで焦がせ

３．照らせよ照らせよ
　　真昼のごとく
　　炎よ渦巻き
　　暗夜を焦がせ

４．燃えろよ照らせよ
　　明るく熱く
　　光と熱との
　　元なる炎

５．名残りは尽きねど
　　惑いは果てぬ
　　今日一日の幸
　　静かに想う

★★★　営火の祈り　★★★

※イギリス民謡
【作詞】尾崎 忠次
【作曲】

１．灯をともすごとに　膝をかがめ
　　恵の御神に　祈りまつれ
　　祈りは炎と　立ちのぼりて
　　感謝の心を　ここに満たさん

★★★　Edelweiss　★★★

【作詞】HAMMERSTEIN　OSCAR　Ⅱ
【作曲】RODGERS　RICHARD
【 歌 】

１．Edelweiss, Edelweiss
Every morning you greet me
Small and white,
Clean and bright
You look happy to meet me
Blossom of snow,may you bloom and grow
bloom and grow forever
Edelweiss, Edelweiss
Bless my homeland forever

エーデルワイス　エーデルワイス
可愛い花よ
白い露に濡れて　咲く花
高くあおく光る　あの空より
エーデルワイス　エーデルワイス
明るく匂え

Edelweiss, Edelweiss
Bless my homeland forever

★★★　おおブレネリ　★★★

【作詞】松田 稔
【作曲】スイス民謡
【 歌 】

１．おおブレネリ　あなたのお家はどこ
　　私のお家はスイッツァランドよ
　　きれいな湖水（こすい）の　ほとりなのよ
　※ヤッホー　ホトゥララララ
　　ヤホ　ホトゥララララ
　　ヤホ　ホトゥランランラ
　　ヤッホッホ

２．おおブレネリ　あなたの仕事はなに
　　私の仕事は　羊飼いよ
　　オオカミ出るので　怖いのよ
　※くりかえし

３．おおブレネリ　あなたの心はどこ
　　わたしの心は　山の彼方
　　なつかしいふるさと　スイッツァランド

★★★　カチューシャ　★★★

【作詞】ミハイル・イサコフスキー
（日本語訳：関 鑑子）
【作曲】マトヴェーイ・ブランテル
【 歌 】

１．リンゴの花ほころび
川面に霞たち
君泣き里にも
春は　忍び寄りぬ

２．岸辺に立ちてうたう
カチューシャのうた
春風優しく吹き
夢が　湧く美空よ

３．カチューシャの唄声
はるかに丘を越え
今なお君を訪ねて
やさしく　その歌声

４．リンゴの花ほころび
川面に霞たち
君泣き里にも
春は　忍び寄りぬ

★★★　黒い瞳　★★★

【作詞】ロシア民謡　（日本語詞：矢沢 保）
【作曲】ロシア民謡
【 歌 】加藤 登紀子

１．黒い瞳の若者が
　　私の心をとりこにした

２．もろ手を差し伸べ若者を
　　私は優しく胸に抱く

３．愛のささやきを告げながら
　　優しい言葉を　私は待つ

４．緑の牧場で踊ろうよ
　　私の愛する　黒い瞳

５．私の秘めごと　父（とと）様に
　　告げ口する人　誰もいない

★★★　サラスポンダ　★★★

※オランダ民謡

１．ポンダ　ポンダ　ポンダ　ポンダ
　　ポンダ　ポンダ　ポンダ　ポンダ
　　サラスポンダ　サラスポンダ
　　サラスポンダ　レッセッセ
　　サラスポンダ　サラスポンダ
　　サラスポンダ　レッセッセ
　　オド　ラオ　オドラポンダヲ
　　オドラポンダ　レッセッセ
　　オセポセオ

２．ポンダ　ポンダ　ポンダ　ポンダ
　　ポンダ　ポンダ　ポンダ　ポンダ
　　糸をば紡（つむ）いで
　　機織り（はたおり）しましょ
　　絹糸（きぬいと）紡（つむ）いで
　　機織り（はたおり）しましょ
　　車は　軽く回る
　　見事な糸おば　紡（つむ）ぎましょう

３．１から繰り返し

★★★　囚人の歌　★★★

※ロシア民謡

１．船こぐ我は　鎖につながれ
　　苦しい時に　いつも想い出す
　　自由と平和に　身を捨ててゆけ
　　涙で語る　母の面影

２．町や酒場に　幸せはない
　　楽しみばかり　求るでない
　　だが若い日は　自由に憧れ
　　翼のぞまず　生きられようか

３．人を殺した　訳じゃない
　　物を盗んだ　覚えもない
　　ただ毎日が　素晴らしい
　　祭りの続きが　欲しかっただけさ

４．仕事に出かける　朝の門口に
　　立ちはだかった王の兵士
　　涙ですがる　母を足蹴に
　　我らを隔てた　牢獄の壁

５．瞳で誓うマドレーヌを
　　いだく胸に　鎖は重い
　　だが幸せと人の誠を
　　求る心は　鎖じゃつなげぬ

★★★　罪つくり　★★★

※アメリカ民謡
【訳詞】藤崎 健二
【 歌 】合唱団とちの実

１．あの時おいらは　独り者
　　はた屋に居たものさ
　　かわいいあの娘を口説いてみたが
　　罪つくり

　※夏のささやきよ　冬の語らい
　　霧にも　露にも　濡らしちゃならぬと
　　抱いたが　罪つくり

２．子供が出来てあの娘は
　　はた屋をたずねてきた
　　お金が無くて暮らせぬと
　　二人で泣きあった
　※くり返し

３．可愛いあの娘は身を投げて
　　この世をのろい死んだ
　　愛の誠とかたみと怒りを残す
　※くり返し

４．いまでもおいらは　独り者
　　息子と二人連れ
　　かわいいあの娘によく似た
　　やさしいあの瞳
　※くり返し

★★★　灯火（ともしび）　★★★

※ロシア民謡

【 歌 】ダーク・ダックス

１．夜霧の彼方に　別れを告げ
　　雄々（おお）しき男子（ますらお）出でてゆく
　　窓辺にまたたく　ともしび（灯）に
　　つきせぬ乙女の　愛の影

２．戦に結ぶ　誓いの友
　　されど忘れえぬ　心のまち
　　想い出の姿　今も胸に
　　愛しの乙女よ　祖国の灯（ひ）よ

３．優しき乙女の　清き想い
　　海山はるかに　へだつとも
　　二つの心に　赤く燃ゆる
　　黄金（こがね）の灯火（ともしび）
　　永久（とわ）に消えず

４．変わらぬ誓いを　胸に秘めて
　　祖国の灯（ひ）のため　戦わん
　　若き男子（ますらお）の　赤く燃ゆる
　　黄金の灯火　永久に消えず

★★★　トロイカ　★★★

※ロシア民謡
【 歌 】ダーク・ダックス

１．雪の白樺並木　夕陽が映える
　　走れトロイカ　ほがらかに
　　鈴の音高く　鈴の音高く

２．響け若人の唄　高鳴れバイヤン
　※走れトロイカ　軽やかに
　　粉雪蹴って　粉雪蹴って

　※くり返し

３．黒い瞳が待つよ　あの森越せば
　※走れトロイカ　今宵は
　　楽しいうたげ

　※くり返し

★★★　ピッケルの嘆き　★★★

※ドイツ民謡
【作詞】岡本 敏明
【作曲】不詳

１．もしも私がヒマラヤに
　　行けたとしたら　嬉しいわ
　　氷の岩場を切り開き
　　私の彼氏を通します

　　天を突き　雪のある
　　そんなお山を　待ってるの

２．私の好きな　あの人は
　　とても強いけど　のんき者
　　ザイルさばきは素敵だが
　　いつでも　へばって　いるばかり

　　I love a mountain.　He is a snow man
　　My man is all man and the only one for me

３．ある雪の夜　山小屋で
　　私を抱いて　ヒマラヤへ
　　お話聞かせてくれたけど
　　ただそれだけなの　淋しいわ

　　夢にまで　見てるのに
　　ちっとも行かせて　くれないの

４．私はシェンクの　ピッケルよ
いつも淋しく　床のすみ
高いお山へ連れて行って
くださる時は　来ないかしら

I love a mountain.　He is a snow man
My man is all man and the only one for me

★★★　フニクリ　フニクラ　★★★

【作詞】Luigi　Denza　【訳詩】青木 爽/清野 協
【作曲】※橋本 晃一　編曲
【 歌 】

１．赤い火をふく　あの山へ　登ろう　登ろう
そこは地獄の釜の中　のぞこう　のぞこう
登山電車ができたので　誰でも登れる
流れる煙は　招くよ　みんなを　みんなを

※ゆこう　ゆこう　火の山へ
ゆこう　ゆこう　山の上
フニクリ　フニクラ　フニクリ　フニクラ
誰も乗る　フニクリ　フニクラ

空は青空　陽は高い　登ろう　登ろう
涼しい風も吹く　登ろう　登ろう
登山電車ができたので　誰でも登れる
流れる煙は　招くよ　みんなを　みんなを

※くり返し

★★★　むかし　むかし　★★★
【作詞】ドイツ　学生歌
【作曲】不詳

１．むかしむかし　或るところに
　　登山者という　奇妙な人種が
　　あったとさ

２．夏になると　テント背負って
　　わざわざ寂しい　山に登って
　　喜んだ

３．それで足らず　冬になると
　　スキーとワカンと　アイゼンまで付け
　　山の中

４．自分の住む　国の中の
　　山では足りずに　ヒマラヤまでもと
　　押し出した

５．こんなバカな　人種はいま
　　地球の上には　いないとお偉い
　　人は言う

★★★　もえろよ　もえろよ　★★★

※フランス民謡
※メロディ「一日（ひとひ）の終わり」

１．燃えろよ　燃えろ
　　炎よ　燃えろ
　　火の粉を　まきあげ
　　天まで　こがせ

２．照らせよ　照らせよ
　　真昼の　ごとく
　　炎よ　うずまき
　　闇夜を　照らせ

３．燃えろよ　照らせよ
　　明るく　あつく
　　光と　熱との
　　もとなる　炎

★★★　森のクマさん　★★★

※アメリカ民謡

１．ある日　森の中　　クマさんに　出合った
　　花咲く森の中　花咲く森の中

２．クマさんの　言うことにゃ
　　お嬢さん　お逃げなさい
　　スタコラサッサッサッのサ～
　　スタコラサッサッサッのサ～

３．ところが　あとから　クマさんが　ついてくる
　　トコトット　トットットッのト～
　　トコトット　トットットッのト～

４．クマさんが　後ろから　大声で　呼びかける
　　お待ちよ　お嬢さん　お待ちよ　お嬢さん

５．疲れた　お嬢さん　うしろを　振り向いた
　　キョロキョロキョロキョロと
　　キョロキョロキョロキョロと

６．クマさんの　その手に　きれいなリボンが
　　ヒラヒラヒラヒラと　ヒラヒラヒラヒラと

７．リボンを　落とした　お嬢さん　喜んで
　　二人は　仲良し　二人は　仲良し

★★★　山の大尉　★★★

※イタリア民謡
【作詞】牧野 文子
【作曲】F. Gervasi

１．山の大尉は傷付いた
　　部下の山岳兵たちに、
　　もう一度ここで逢いたいと
　　息絶え絶えに言付けた

２．山岳兵は言付けた
　　靴がないので歩けないと
　　靴を履いても履かんでも
　　山岳兵に逢いたいと

３．陽の差し昇る山の朝
　　山岳兵は訪れた
　　大尉殿、何の命令です
　　我らはここに着きました

４．私の体を５つに
　　切ることを命じます
　　第一の切れはイタリア皇帝に
　　部下の兵の記念にと

５．第二の切れは連隊に
　　大尉であった記念にと
　　第三の切れは我が母に
　　息子の兵の思い出に

６．第四の切れは恋人へ
　　我が初恋の想い出にと
　　最後の切れは山々へ
　　バラで山をおおうため

★★★　山の娘　ロザリア　★★★
((山のロザリア))

※ロシア民謡
【日本語詞】丘灯 至夫

１．山の娘　ロザリア　いつも唄を歌うよ
　　遠い牧場　日暮れて　星の出る頃
　　帰れ　帰れ　もう一度　忘れられぬあの人
　　涙流し別れたよ　君の姿よ

２．黒い瞳　ロザリア　一人唄を歌うよ
　　風に揺れる　花のよう　涙流して
　　帰れ　帰れ　もう一度　優しかったあの人
　　胸に抱くは形見の　銀のロケット

３．ひとり娘　ロザリア　山の唄を歌うよ
　　歌はいつも悲しく　星もまたたく
　　帰れ　帰れ　もう一度　命かけたあの夢
　　移り変わる世の中　花の散りゆく

４．山の娘ロザリア　いつも一人歌うよ
　　青い牧場　子ヤギも　夢を見るごと
　　帰れ　帰れ　もう一度　忘れられぬあの日よ
　　涙流し別れた　君の姿よ

― ジャンル？ ―

★★★　愛の砂丘　★★★

【作詞】不詳
【作曲】不詳
【 歌 】不詳

１．空がこんなに　青いのは
　　夕べの街に　ひっそりと
　　風が渡って　行くからか

２．星がこんなに　きれいなのは
　　乙女の瞳に　光ってた
　　真珠の玉の　色ゆえか

３．雪がこんなに　赤いのは
　　乙女の髪に　咲いていた
　　真紅のいう　色ゆえか

４．道がこんなに　遠いのは
　　別れた時の　口づけが
　　白い吐息と　なるからか

★★★　赤い花　白い花　★★★
【作詞】中林ミエ
【作曲】中林ミエ
【 歌 】

１．赤い花摘んで　あの人にあげよ
　　あの人の髪に　この花さしてあげよ
　　赤い花　赤い花　あの人の髪に
　　咲いてゆれるだろう　お陽さまのように

２．白い花摘んで　あの人にあげよ
　　あの人の胸に　この花さしてあげよ
　　白い花　白い花　あの人の胸に
　　咲いてゆれるだろう　お月さんのように

３．赤い花ゆれる　あの娘（こ）の髪に
　　やさしい人の　微笑みにゆれる
　　白い花ゆれる　あの人の胸に
　　いとしい人の　口づけにゆれる
　　口づけにゆれる

★★★　エーデル・ブルース　★★★

【作詞】不詳
【作曲】不詳

１．チーフ・リーダーは　女の子
　　サブ・リーダーも　女の子
　　あとのメンバーも　女の子
　　登るファイトは　戦闘機

２．山の高嶺の　オコンジは
　　雪も岩もなんのその
　　だけど心は　薄雪草
　　日焼け止めぬる　いじらしさ

３．女の子はやっぱり女の子
　　やさしい男の子を求めているんだよ
　　キミ　頑張った

★★★　おお雲雀（ひばり）　★★★

【作詞】高野 辰之
【作曲】メンデルスゾーン
【 歌 】

１．おお雲雀　高くまた
　　たのし　何を歌う
　　天の恵み　地の栄え
　　そを讃えて　歌う
　　そを讃えて　歌う

★★★　風の盆恋歌　★★★

【作詞】なかにし 礼
【作曲】三木 たかし
【 歌 】石川 さゆり

１．蚊帳の中から　花を見る
　　咲いてはかない　酔芙蓉
　　若い日の　美しい
　　私を抱いて　欲しかった
　　しのび逢う恋　風の盆

２．私（わたし）あなたの　腕の中
　　跳ねてはじけて　鮎になる
　　この命　ほしいなら
　　いつでも死んで　みせますわ
　　夜に泣いてる　三味（しゃみ）の音（おと）

３．生きて添えない　二人なら
　　旅に出ましょう　幻の
　　遅すぎた　恋だから
　　命をかけて　くつがえす
　　おわら恋歌　道連れに

★★★　金沢望郷歌　★★★

【作詞】五木 寛之
【作曲】弦 哲也
【 歌 】松原 健之

１．桜橋から　大橋みれば
　　川の岸辺に　かげろう揺れる
　　流れる雲よ　空の青さよ
　　犀星の詩（うた）を　うつす犀川
　　この街に生まれ　この街に生きる
　　わがふるさとは金沢　夢を抱く街

２．春の風吹く　香林坊に
　　小松砂丘の句（ことば）がのこる
　　過ぎゆく歳月（とき）よ　街は変われど
　　辰巳の用水（みず）は　今日も流れて
　　この街に生まれ　この街に生きる
　　わがふるさとは金沢　夢を抱く街

３．君を見送る　兼六園の
　　雪の白さが　心にしみる
　　飛びゆく鳥よ　また逢う日まで
　　秋声の想い　胸にきざんで
　　この街に生まれ　この街に生きる
　　わがふるさとは金沢　夢を抱く街

　　この街に生まれ　この街に生きる
　　わがふるさとは金沢　夢を抱く街

★★★　早春譜　★★★

【作詞】吉丸 一昌
【作曲】中田 章
【 歌 】童謡・唱歌

１．春は名のみの　風の寒さや
　　谷のうぐいす　歌は思へど
　　時にあらずと　声も立てず
　　時にあらずと　声もたてず

２．氷とけさり　葦はつのむぐ
　　さては時ぞと　思うあやにく
　　今日も昨日も　雪の空
　　今日も昨日も　雪の空

３．春と聞かねば　知らでありしを
　　聞けばせかるる　胸の思ひを
　　いかにせよとの　このごろか
　　いかにせよとの　このごろか

★★★　富山の夜　★★★

【作詞】まるやま まさみ
【作曲】桜田 誠一
【 歌 】北森 啓介

１．あなたの恋を　失くして泣いた
　　総曲輪通り　ネオンが泣いた
　　にがい　にがい酒でも　こころが欲しい
　　グラスに　グラスに愚痴の　紅がつく
　　星に涙を　散りばめた
　　富山の　あぁ富山の夜よ

２．心変わりが　憎いと泣いた
　　涙が　涙を　誘って泣いた
　　いつも　いつも傷付く　女はいやと
　　夜霧の噴水広場　灯がにじむ
　　恋の亡骸（なきがら）　散りばめた
　　富山の　あぁ富山の夜よ

３．あなたの愛を　忍んで泣いた
　　神通川の　川面で泣いた
　　消えぬ　消えぬ面影　未練な心
　　月さえ　月さえうるむ　呉羽山
　　星に涙を　散りばめた
　　富山の　あぁ富山の夜よ

★★★　人を恋ふる唄　★★★

※明治 30 年 8 月京城に於いて作成
【作詞】与謝野 鉄幹
【作曲】不詳
【 歌 】森重 久彌

１．妻をめとらば　才たけて
　　見目うるわしく　情けある
　　友を選ばば　書を読みて
　　六分の侠気　四分の熱

２．恋の命を　訊（たず）ぬれば
　　名を惜しむかな　男（お）の子ゆえ
　　友の情けを　訊ぬれば
　　義のあるところ　火をも踏む

３．ああ我れダンテの詩才なく
　　バイロン　ハイネの熱なきも
　　石を抱きて　野に歌う
　　芭蕉のさびを　よろこばず

４．酌（く）めや　美味（うま）酒　歌姫に
　　乙女（おとめ）の知らぬ　意気地あり
　　簿記の筆とる　若者に
　　誠の男子（おのこ）　君を見る

　　※つづく

★★★　冬の星座　★★★

【作詞】堀内 敬三
【作曲】William　Hays
【 歌 】白鳥 美子

１．木枯らし　とだえて　さゆる空より
　　地上に降りしく　奇（くす）しき光りよ
　　ものみないこえる　しじまのなかに
　　きらめき　揺れつつ　星座はめぐる

２．ほのぼの明かりて　流るる銀河
　　オリオン　舞い立ち　スバルはさざめく
　　無窮をゆびさす　北斗の針と
　　きらめき　揺れつつ　星座はめぐる

★★★　向こう通るは女学生　★★★

【作詞・作曲】浜口 庫之助

【 歌 】守屋 浩

１．向こう通るは女学生　三人揃ったその中で
ひときわ目立つ真ん中の
色はホワイト　目はパチリ
口元きりりと引き締まり
溢れるばかりの　愛らしさ
マイネフラウとするならば
僕は益々勉強して
ロンドン　パリをまたにかけ
フィラデルフィアの大学を
優等で卒業した時にゃ
あの娘は他人の妻だった
残念だ　残念だ　残念だ　また探そう！

２．向こう通るは女学生　三人揃ったその中で
ひときわ目立つ真ん中の
色はブラック　目はギョロリ
口元だらりと垂れさがり
溢れるばかりの　いやらしさ
マイネフラウとするならば
僕はますます堕落して
チベット　モンゴルまたにかけ
ホッテントットの大学を
ラストで卒業した時にゃ
あの娘は僕を待っていた
残念だ　残念だ　残念だ　また探そう！

★★★　蒙古彷徨（放浪）歌　★★★

【作詞】仲田 三孝
【作曲】川上 義彦
【 歌 】

１．心猛くも　鬼神ならで
　　男と生まれて　情けはあれど
　　母を見捨てて　波越えてゆく
　　友よ兄等（けいら）と　いつまた会わん

２．波の彼方の　蒙古の砂漠
　　男多恨の　身の捨てどころ
　　胸に秘めたる　大願あれば
　　生きて帰らん　望みは持たじ

３．朝陽夕陽を　馬上に受けて
　　続く砂漠の　一筋道を
　　大和男児の　血潮を秘めて
　　行くや若人　千里の旅路

４．砂丘を出でしは　砂丘に沈む
　　月の幾夜を　我らが旅路
　　明日も川辺の　見えずばどこに
　　水を求めて　蒙古の砂漠

★★★　我が大地のうた　★★★

【作詞】笠木 透
【作曲】田口 正和

１．カラマツ　コメツガ　針葉樹林
　かもしか　ツキノワグマ　走る稜線
　そびえ立ち　連なる　我が山々よ
　そびえ立ち　連なる　我が山々よ
　いく度か　春を迎え
　いく度か　夏を過ごし
　いく度か　秋を迎え
　いく度か　冬を過ごし

２．柿の木　赤土畑　広がる水田
　かわやなぎ　青い水　流れる河川
　この土地に　生きている　私の暮らし
　私に流れる　人たちの歴史
　私が歌う　歌ではない
　あなたが歌う　歌でもない
　我が山々が私の歌
　我が大地が私の歌

３．かるかや　かやつり草　積乱雲
　からすうり　月見草　風渡る草原
　この土に　私のすべてがある
　この国に　私の今がある
　いく度か　春を迎え
　いく度か　夏を過ごし
　いく度か　秋を迎え
　いく度か　冬を過ごし

４．かもめどり　クロマツ　岩礁海岸
カツオドリ　ウミツバメ　うねる水平線
この国の　歴史を知ってはいない
この国の　未来を知ってはいない
けれども私は　ここに生まれた
けれども私は　ここで育った
私が歌う　歌ではない
あなたが歌う　歌でもない
我が山々が　私の歌
我が大地が　私の歌

ー　索　引　ー

ページ	歌名
1	表紙
2	旧：富山大学　学歌
3	現：富山大学　学歌
4	浄土の山男
5	ー山の唄ー
6	あいつ
7	赤いヤッケの想い出
8	あざみの唄
9	いつかある日
10～11	おいらの恋
12	おおシーハイル
13	岳人の唄
14	キャンプファイヤーの歌
15	山賊の歌
16～17	新人哀歌
18	ダンチョネ節
19	小さな日記
20	剣沢哀歌
21	剣の歌
22	剱の尾根
23	はるかな友に
24	ひとりの山
25	ピレネーの山の男
26	二人の山男
27	穂高よさらば
28	山男の歌
29	山小屋の灯

30　山の子
31　山の賛歌
32　山の友よ
33　山の人気者
34　槍ヶ岳の歌
35　槍と小槍
36　ゆき子
37　雪山賛歌
38　雪山に消えたあいつ
39　ライダース・イン・ザ・スカイ
40　ワンゲル　ズンドコ節
41　ー　寮歌・他校の唄　ー
42～43　あぁ玉杯に花うけて
44～45　エーデルワイスの歌
46　丘の團欒に（富山高校・寮歌）
47　北の都に秋たけて
48　逍遥の歌
49　天は東北
50　なため
51　琵琶湖周航の歌
52　武天源頭に草萌えて
53　紡ヶつる賛歌
54～55　都ぞ弥生
56　ー　フォークソング　ー
57　青葉城恋唄
58～59　哀愁のカサブランカ
60　あの鐘を鳴らすのはあなた
61　あの素晴らしい愛をもう一度
62～63　あんたが大将！

64	いちご白書をもう一度
65	イムジン河
66	エメラルド
67	襟裳岬
68	大いなる旅路
69	おもかげ色の空
70〜71	幼なじみ
72	風
73	悲しくてやり切れない
74	季節の中で
75	今日の日はさようなら
76	巨人の星
77	銀色の道
78	くちなしの花
79	心の旅
80〜81	黒の船歌
82	この広い野原いっぱい
83	酒と泪と男と女
84〜85	ささやかなこの人生
86	さすらい人の子守唄
87	サボテンの花
88〜89	思秋期
90	さらば恋人
91	ジョニーの子守唄
92	知床旅情
93	白い色は恋人の色
94	白い想い出
95	白い花
96	白いブランコ

97　死んだ男の残したものは
98　青春時代
99　戦争は知らない
100　戦争を知らない子供たち
101　武田節
102　ただお前がいい
103　翼をください
104　どうしてこんなに悲しいんだろう
105　東京
106　遠い世界に
107　友よ
108　なごり雪
109　２２歳の別れ
110　橋を作ったのはこの俺だ
111　二十歳のめぐり逢い
112　花はどこへいった
113　花嫁
114　バラが咲いた
115　冬が来る前に
116　冬の日の恋
117　冬のリビエラ
118　また逢う日まで
119　岬めぐり
120～121　ミヨちゃん
122　水虫の唄
123　若者たち
124～125　別れうた
126　別れの朝
127　―　なつかしいメロディ　―

128　青い山脈
129　学生時代
130　籠の鳥
131　北上夜曲
132　ゲイシャ・ワルツ
133　酋長の娘
134　惜別の唄
135　南国土佐を後にして
136　北帰行
137　喜びも悲しみも幾年月
138　旅愁
139　－唱歌－
140　家路
141　四季の唄
142　夏の思い出
143　故郷（ふるさと）
144　旅愁
145　民謡（国内）
146～147　こきりこ
148　竹田の子守唄
149　百舌鳥が枯れ木で
150　－民謡（海外）－
151　赤い河の谷間
152　アルプス一万尺
153　一日の終わり
154　営火の祈り
155　エーデルワイス
156　おおブレネリ
157　カチューシャ

158　黒い瞳
159　サラスポンダ
160　囚人の唄
161　罪つくり
162　灯火（ともしび）
163　トロイカ
164～165　ピッケルの嘆き
166　フニクリ　フニクラ
167　むかし　むかし
168　もえろよ　もえろよ
169　森のくまさん
170～171　山の大尉
172　山の娘ロザリア
173　－ジャンル？－
174　愛の砂丘
175　赤い花　白い花
176　エーデル・ブルース
177　おお雲雀
178　風の盆恋歌
179　金沢望郷歌
180　早春譜
181　富山の夜
182　人を恋うる唄
183　冬の星座
184　向こう通るは女学生
185　蒙古彷徨歌
186～187　我が大地の歌
188～193　－索引－

平成 29 年 5 月 1 日

富山大学ワンダーフォーゲル部　歌集　　Ver.04

昭和 52 年 4 月 Ver.2 編集（S49）久保 ゆかり
〃 （S49）三村 益夫
〃 S51 入学のみなさん
昭和 54 年 4 月 Ver.3 編集（S51）米田 嘉則
平成 29 年 5 月 Ver.4 編集（S49）小栗 幸弘